邀觸無底抄

特別
へ12
1077
31

宮城縣立圖書館

利
1077
3031

へ12
1077
31

藤袴

卅七歳　　太政大臣

内侍上﹅宮仕同事

玉鬘君著祖母服又々喪寧相中納

著外祖母服事

夕霧の中將寧相のうしはめて

ちゝふみ作ま三条式部丞せ給

ふ事い河法たふみ作す

さしトの須り侍ゝもとの月

小八めさせ給へきを日比いてゝ
しからさりけりナ三日八かりゝ
おさせ給へきとしゝ是八玉鬘
美の八月みうはの服とぬさ給
事をいとゝ世を月の服か
事をいとゝ八月事をゝゝ小月ふ
三条宮かゝれなし
宰相中将為源氏殿使京玉鬘事れ
門殿執行事

八月十三日玉鬘美濃服事
宰相中将物蘭花奉玉鬘事
宰相中将参殿殿前玉鬘殿出事
殿ナ　此次殿和歌事ハ二のナ
十月ハ有八月ゝ
物ナ以中将ハ右殿殿使東西対ナ
九月西対姫君美今人生競事ナ
姫君中ゝナ文ゝ殿ナ許事

蘭（フヂバカマ）

以詞并歌為主名但詞ハ所ノ

なしあり

夫名ばかりにて実ハ花穂

ありれそよかとつくりも

源氏七の八月のまきあり又異説

源氏七八月九月の事也但流水八三月

ちりぬ七月ハ事ハみえ

内侍ゝみの沙汰人のゝ
何
初名ゝいとの尚侍ゝかゝれる屏
文仕のゝいまゝゝあるまゝゝ引き
ちえゝうわゝゝ
元
星ゝゝゝまゝ尚侍ゝ仕せゝまゝ

てのちゝ入内のゝあり　お遥か
きゝゝ
松
ゝゝゝゝゝ内侍のゝみゝゝゝ
まゝみ粗沙汰あり　五月ゝゝ内
侍のゝみゝ成ゝゝゝゝゝ
内侍のゝみゝ仕ゝゝ倒花鳥ゝ

[illegible]

秘 源と内大臣と

おなじ思ひきこえ

秘 玉かづらは中せ

図 実父なりとも

[illegible]

秘 源のかうけをいり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 たりかさとまるり

自然侍門の

[illegible]

中宮女侍を

秋好の弘徽殿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

実又ゑれとも公事をすてゝ色
さ女ゝやうなれ共ゑれたりし
ゝ女やうをゝ
いたくもゝ思ひしめ
弄 源も円左衛門殿
見給へとゝ以ゝ程
ゝ也
秘 たまゝ女ゝ
てまゝかゝ

図 たてまつりて
いまゝ云ゝ
なり
私云ゝ義とゝいふゝ
業ゝにみゝれ寵をうゝ
いまゝ松ひゝ
り又円左衛門殿女房ゆゝ
ゝ
ゝ

うけひ好人

秘 呪詛の心やさきまてハさきおもさ
ゆゑ物思心

図 あれとうしむ心
寿 呪詛の心さきまてハさきれまてハ

ふしぎとうしぬ心源氏の意
毎をうけひハ人の
河 彩川 水原抄 業之うけひハ人の
のろしく四方心

呪詛 日本紀 此心さきまて日本紀ハ誓
とうけひとあり 此れ誓言の
業やいう報あ誓言の
あさうを
水のうへふ報うくうけひくりを
命ひて

りあんとらけひつかなも
礼儀ちふれ
私云私ノ義なるへし

批判しきましき
玉かつら此年齢分別あるへし

といふなり
さりとてうつゝ河ほと海を
再
源のゝ名それもあしき事にて
さかしとて
秘
文体りかいうつ事阿さりけて
ハなりけるなり
私云はもし源のかみたいその事之
あなたしれ侍らなく
何
意見ココロハ　日東記　批しし　ハ　源也

いろのうせぬるをは
もてさそはれて人の
なかめするとき
むら
見さかりぬる男を源氏のきく
ハをき源もきこえ人めをつる
事なり
ひさしくしも
むらさきの此宮をあれとをは
らぬをとこ
面をもたちかくを
桜
源のなけきを思ひたちて
うり源ゆへ人しりわかぬもえをり
もちて源ハいはけなる
うけをうりてうりはらけさやさ
源へさ
河ゝかり
請
日本紀
諾日
清
年年
伶
口
真
図
内侍の今さらもうとましひ
うり源事しも源へうかりてえ
しなるせ

私云まうハりあふ程里
もり心はけさやくハものふきハを
こそ〳〵もりぬ〳〵
れしてもかくてを
是ハおよそ初り合てみて
人内ありてもまこあり
をこそは中文女清の清をきき
めしくてハまこ清の心けた
まり〳〵まこ清まれ心をきき清

あさまをもてをかてりとも
をり但愚あまやもあり

かをしくしまを
懸ハ
私云はは初おり清をり面業り
をあり有まこの中みかてをを
ませ人のをを書まをの仏

中〳〵此者うち
実父円左衛門なる事をあらはし給
ひてうちはおもうへ源のつかり
もうへなる気さをとあらはし
給へ御ふのふみてあり
しゆ人ありとうかゝ給ふ
うへくろ様とはいおもしたた

つれしも
いたくもうへの御上なれ

秘
源円左衛門
式
おやといはは源円左衛門二人を
ひきて
みいうへ給へうさを
もうれ様
うすさしひ文のはて
薄鈍色
紅梅服せうす花四

三条の大臣うせ給ふる事聞て
北方乃御服者久しくなりぬ
ひるもよるも御事ハ行末
悲しくのみえこそ
秘
三条大臣やうやう御ものゝ
みくりけ生ふ世給ふとは
えこそ三月廿日の夜の裏にて
みえこそ三月なかばへ今玉鬘
祖母の服をぞ給ふ 年六歳四月

けニ行年三月

義四三月より八月まで外祖母の服
六ケ月やうなれ例ニ云
私三光院筆如此

寄物中ハ大ぶし文のつまをこそ書
やうなり

図
久雲ハ外濃
なれども別而
紫色濃
濃色のこ
きとき濃
色也

松
久雲染濃り紫色まてあ
みてり紫草
紫色をうつし　寿

ゆ
ゆるりて寧れまるしりあるる
寧まるしりあるそみてりまれも
か祖母の服をきさ濃てり　狸服
直衣紙文寧紗或薄嵐文を
用也

濃
おもやうハ例の濃文　なし

のありさりまきうひて服文
をかりあるりまりハおうくさせ
寧見河海し

松
文のまる師服ハ紫濃深也
ゆるりハ紫也濃なるより
て色のこれ
えいまれ濃

河
夫響者著服ハ俄濃也
服古のまて濃りて冠れりを

のそく

はるかすみ

公 されハゆきうちとむるとも

あひしらひ

秘 むらさき実ハ兄弟のうとき

らせ給ゆうべ夕ぐれハまとも

はらうれたくしおつる

いさあるうりきとて

公 夕霧ハさとハわかくいまさ

なるをけるよりていつらかるを

みさけるうるへきを

秘 今さうみうるくしく

なつかしもいつるとも

殿のゆせりそこまて内りおくせ事

公 尚侍の内入内の事

秘 内りゆきうりと侍使とて源

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

かれぬ [illegible]

何 胡面 万葉集巻一 第八番 何人の [illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

秘 寶子 ふるうてハあり [illegible]

[illegible]

図 兄弟と [illegible]

[illegible]

しとや
きてあさらあてのうたれしかのぬ
さてうそひて
図 夕霧と兄弟なりぬ事せ
秘 れもあるぬとは夕霧れ我身も
あるぬ心てくと
私云うてあるうちとハ夕霧
も兄弟と思ふ事なるも
さて兄弟なるぬうとを明らあ
てハ夕霧なりもとうれたるとも
成角
あ文つくとおかうこかし
光ハ源の光氏と夕霧れ北堂
て四つより呉今文ハ久の事
とのくまよ侍使られる
図 源氏むうを文つくよ文意
出うておのうしいてみふれ
明るもしりれ事と思ふにれ

たゝるすゑ
夕ぐれ
図
みやこ
みちのくの
きゝ
何事

七

源氏のれせうそこまでもる仏事
とうらせうそこことはいる
こまやかに　何も細
うへれれ申しきれ
秘　まへ人みさうすまききとる
といふ事の細を刻んする
図　夕霧のちうまうたり
はうり事をそれはり
冷のれんうれかとふそれ侍さるる
いあれるもし源のたまよといい
あるを
いへ行りんとこ
むろうれいへんるる
れえ出すまりく
図　夕きりの句
侍てもこの月みハ
図　夕霧詞

む

七月八日ぜ　祇母の脹ハ六月九日ハ
おや文のうせ給ふ　十八日出
家ありて
秘
むろうれ物のけ　ひみ
かくてひけ給ふ
八月ぜ　三月廿日大文の御忌日ぜ
八月廿日まて物脹九日　花多に
ぞ月とあり　七月
三月廿日とうけり

十三日　秘長

かゝ出させ
河
出河原解涂ぞうまぜ　涂脹　秘
まぜ
くひ給ひ
ぞれ物むろうれ　物々ぞうれ
大文ぞ母ぞうれ　祇母むろうの
ゐゐは文かぞうれハ　美ゐ
くやさて　同脹ぞハいうぞ

の給へる
秘
もろもろの物
松蔭くたかしの給へるに
かしこく出給へ
てみるもいと出あはとしく
ゐんやしまして源の清女と人
のおもしろうあ事たるさぬゐん
とも申給へるやうにて此次の物ゐ
て仕給へし

図
松蔭ゐ又母のもとに付て物語
数異別あれはもろもろと夕寄
と同し物語とぬさ給へ
いろいろ古ろ又々雲ハ大文
此御殿やもろもろ源氏清女の
まて古ろ参上氏清服ゐすに
ゐ文ろは他人ゐ人の源氏
此子と人ゐ中ゐ人と氏たま
ろろ氏申給の物

このゆきてをれ　は方　水家物

いまゝて源の女のうりて

あるふ又三条家の西脇をとゝ

いゝ人のあるぬさ後りそうもん

とをうりうり家と雇あり八四

くあるれうり四上前さ仏

さあゝさゝ人しゝ

河

墨ゝ雇あるく上前さ新之

らゝくくしさ之ゝらなさゝも

いつる四しさゝ

秘

今四大民実子代事八山三条家の

山服をさ拾つるにゝりて人あゝ

[illegible]
めくらす物ゆえあると
いつまでも供ぬうつゝの神とか
めてうけうと

[illegible]
ろ
三条実北方腋を出うゝ笑くハ
しさはなをくふあるもくこと世

[illegible]うを宰相中将みる
あれハぬさもそんたゆ物うき
とのひ給ふ
む
大実ハゆゑりなりしいと
ましますあゝ
秘
中ハ上ひとゝ
[illegible]ゝ雪をもに今ハきみの
夜衣あさめて神を咲あゝ
世沼物と
空国川世

りてもあやしうも

心

内ちゝみ清少納言は源氏物語
てゝ又もてなされぬるもの
うとゝ思ふ事ゝ思ふ事ゝ
ゝむとをいまゝゝさりはま
ばりあるゆゝ
多きりみ源氏のもつとうさ
をこさ浮ゝ事といふるゆゝ
さうゝ

秘

兄弟うゝ
なかゝやうみゝるゝ
ゝうりゝ衣ゝてゝ

この清あり（こゝも）　哀れ　哀れ

は　はゝ母の哀れ脈なく　八段位のたゝれ

みしこゝろわるくもまさりなる源氏

れなるハ不二有哀脈なく

なふこゝもなひわるね

枕　もろれ色　夕暮さへ別から

れなれハ海ハてゝいろ人さそと

なり

四ノ段たゝれ

事　たゝはおのゝをとゝろわゝす

ふさろふりはゝしゝゝ

かりゝ人しは人一向ゝ

りゝひわゝとゝろわゝて

へゝぬゝゝとゝろわゝて

かゝるはゝてゝゝ

ゝりれたゝ四ノ

らんの花の
はつ
さうの花とあり紫蘭とも
百字とは俗名なりハ重とも
にとも見る　古今和名部に下みより
ら　らにとも
らんにとも
らんとも　又一ゝ
を紫蘭や　一芸和名
弁　同　らんとも
時ハらふとあるとてよりらん

こゝにへきゝ和書ふるへし
秘
らんに諸本異り　拾遺愚
草和名ひとゝ姫ハらとも
ひとゝ姫ハたゝあるゝ俗名
多ひとゝ字をハ文字とて
らんとも　和名抄

よれとれらんをへさ

幸 服衣のおもやうを
兄弟共に　春蘭　夏蕙
手と名共にうるとの葉兄蕙弟共
月ふるまりありをゆとをいとり
松 蘭ハ類おもさあり蘭兄蕙弟と
いとまあり兄弟共にうるを
松 葉共ゆりをいとるを
私云　春蘭　夏蕙　秋芝　冬蕗
いとり皆一種にせいい

蘭ハ花はとさと例をれハ服衣賦
衣のとさにとりるせとくのもとろ
おさんとうり

とみかゆるさて
ゆとりれは葉と三ちりのをハ
ふるめと
とうとうとしてとて

はるとしはやてとしの色うち
雪はしとなりの
公忠卿家集
ちりあまりたりとうとみ
山をみちりみかさんとやう
晴嵐日花うつてふ秋の色とう
ねはなしみはあるうきり
藤姑射力自ぬれうとみれこと
いるみのいるみきこゆりみも
今重うとしとは須うつひも
いろもうもあうとうみやりよ
毎こさや
冬
うはうとは一向みとは須
松をいうとの彼れうきう
はつれ毎きうとのうとれ
見ハうり底もい
秘
うとうり
みとはつてハひうきうふ
彼のうとう一向りの色彼とみ

ありつるまゝにて一日よ四てをけ
をりてをり給つるせ　河海説なり
清神をひきうしろ
もとゝなれてをゆきうれしう
こうすゝ
夕霧
たゞ御ぐ霧やつゝ夜待
日のくれはをけよかしとゝりて
日　日し御れ霧やつゝとハもろ
と夕霧とゝふ　紅梅の脱ゝ色
たゝうまつり
左　夜待ハ着ものゝ
寄　紫きてハ夜衣ぬりとゝ
かゝとハかもせ
紗　上句三条文ぬ清脱を同ゝ
きゝ給へとゝ夜待ゝ夜衣の
ゆあり　うとハ　誓　言ゝぬ
ゝゝ斗ゝとゝ

みちれそらを
は　あつましちれ路のそらをいひちら事也
かとつうしあんとも思ふ　秘曰
む　くふもはつりしいふ事の縁に

きけていふや　同
弁　すれは雨ハ雲より降てハくたこし
もあんとらあるあんといふ心
より出きりの縁也
色玉嬰　河めのふりかけさせんの流れありハ
うきとむしさんやかとをまし
むは撰　むさしかも神ひりうちりして
わうむしされハさうてるひゆきい
今東くるきさのくもハむさしのと

いり、かの年も暮て春夕になり
と連枝の中ありて いまさきの之
ありハ葉のうち紀中りはかうら
行べきり いまさき中まてもあさき
かりに よきりつき事ハうち行し
とまりての春のいひのれいろ
ありおもへの趣なまて事をかく
してうといつら給之 下の詞
りかやしみてきこ中うちぬかさ

也をいくといろまて此の句ハいり
秘 さらぬ行る之
此の花鳥の義も面白く見えうつ
まりハ此かともて ハ見えたくされハ
おかしきとも いふべき雑しなきまた
いかけさ中まてもあれはみかたへ
さらしかしといひのれいうを
あり 又ノ義ち玉鬘ともいふ也と
此中をよく思ぬれハ見えもはあり

次つるけさのくりはれもさらす
ゆゑ人をとゝのへさせ給ハすす
らすもきこえれなとれゆゑハあら
ゑ
ゆゑ実ハいとこゝろゆへなり
辛
世ゑれもろハ玉ゑうとくきりと
くゝゑぬきは先ゑれゆへり
はるけさしいとり藤葉とハ実ハ
いとこゝろゆてゑうゑへきゑをきゆり
ゑれハ藤葉といわ

図

ゑれ公ゑゑ　花ゑ又面也
はるきさいをきゆりせ藤葉ハ先
ゆゑはあらすいとこゝろゆへなり
かとゝゑうこゝろゆゑ
花ゑ流ゑ川ゑなり

かやりまてきこゆる

図 みとうれ村雨やうとゝうを
もあるゝとそこゝとをのゝん
たゝふれかゝるゆへいとと
もうるれ野ゝうさの浮世や
とうゝうちわひて
夕雲の秋せ
あされもゆうきこも

弁 むうられこうろうと海ゝ手八遠
ゝの浦まうゝとゝ図
秘 夕雲のと空さ むうらはうろう
ゝうう手八あゝんゝの浦ゝうゝ
やいうさ海ゝうれうゝゆゝていうさ
うう

まめやかみそいとかゝーけうさ
弁 ゝれ心いうゝ清ゝうゝ秋というや
ゝゝうゝうゝあうれゝ見ゝいうゝや

図

あるかりあり思ひたる
えつて行りん人なりゆさまて
りあれと兄弟といふまとらかく
思ふなり
えつて侍ぬ
こそと出ん(こそまて)ハあるれも
やと
かりあり出てらハ中ゝとみ
行りんあとしこあつれとも
ゝ

ひれゆのさはあを
いんとと
今ゝおかし

図

俺あれハまなゝ
身をつゝてあんとれ思ふ

秘

まゝりハかゝ
主はをはら
いつる
乃中あれりまハ

ひらてもあんと

む

撰集むとて

さとうとうけしまし夕食をなく

いと四うてもしれむるまひも

せきわしうはの内のなとは

きひうてけれとうみ

川くうと

中うれまをなりひけり

撰集をえしてからぬ

うとうとうとうとうとうとう

ひんをとうれうく四子の神之と

あうれとふ

夕うれ分をとあうれとに際

ようとうとうの子せ

かうういうれハ

秘 作れ

かんの春やうり

身 円位のうみうり子中山に

てけうとうとうとう

極
りてえんのえていろ円ゆの
み
幸
私云沢の鶴ゆ此歌をきゝみ
しゝりいまゝ尚ゆみハ如何ゆ
や但み如何ふれとも志ゆ
ゆ尚ゆ加ゆ半北不に
てりてらゆ西ゆそれるゆ下
私云世初ゆ鶴洲ゆ為ゆ
ゆゝゆゝゆ入ハねみて入月して文

ゆ入りゆ行ゆすゆ里ゆゆ尚
待ゆてたハせゝ

ゆらされゆきゆ
極
夕ゆりゆ世ゆ
ゆゆりのわゆの公の実ゆをハ
ゆゆゆゆゆ
いゆて行ゆれハ

秘 奥へ入り給へ

みちもなびき

ゆきめも

夕ぎりの絶間

うれいはてぬ

秘 第十二

河 ゆふかぜ

こゑ同時に第二段み

うちしぐる

秘 はるのゆきおろし

いてゆきて

同 源のときさん出てゆきりにあひ

はるよせ

れんりかた

秘 むらくもとりさらせ

これ文つくをふくみ

秘 源の翁

再 むらくもの年ハ文つくを

ぬくめて思ひたちみかく

みなしてうつくしき
ものなれば
私云まことハ法こと雖法の
変ずれ共
何
練　練習
寄
也ハ
好
秘
行ハ　合法又相法
私云変ぬより相法
人ハ
とうての
かりそめ
つくしをまつ
ものなり
源
非量
時
也
むかし
思
ひてハ
思ひ
人
ハ
の
むかし
むかしを
かんや
おります
なり

もし御きりのけんしふたまや
されまし
玉のをの人さぬきいるやうのあるし
給て紙合給けんをしれまうきれ
ゆしさたにうきりの御源氏ふつ給そ
秘 うきりの御息所いつきさぬめて
しかうへこさうとや
いみしき清なれひ
秘 中文仏中殺りしなりま事ハあらうされ

はかまの后又ハ勅使なしとあわ
後のはかませ
桐壺みうとは子のとしおもう
おほみきわ
れいのはれをねす
秘 はじめのはうくさぬしあうへし
うけましもうしこれ
寿 疎ちうへし
むし 宣命詞 掛（カケマクモ） 畏（カシコケレトモ）

秘 これハ神言へハいとせ給ふ事
さんもあるべしなれども
ゆゑよしなくて
仮 榊葉よりゆゑてうきてうき世にう
神のみまへにいる初りん
不及は
仮 綾令栗忌部（ヒノベ）
綿者 四事 本紀
なり神ふにして

無 天原ゆゑみそなはす神なる神を
ゆゑ中臣はさくるものは
幸 天原ゆゑしの方ゆゑての法
ゆゑみそなわす 秘日
秘 は中臣さけ給ハ神宮ゆゑ
なれくるわ
原 中ゆゑうたつみ神を仏あるハあね
うれの中をさてきれ
ふつゑ神ハ地祇と出ス 山祇と出て

八雲之神八起石之地紙と八
一切の神といふ人とあるあり 并日
式抄さ[illegible]やふつみ神ゆうえ
てもとみ[illegible]
なれ地をなるうたたりてうとあり
さらに入さう事あり
八別事

伊勢国号産
四事事紀曰
生涙路別為肥意所不使故曰淡道
別即謂吾恥之次生伊与二名別次生
筑紫別次生壱岐別次生対馬別
次生隠岐別次生佐渡別次生大日
本豊秋津別曰斯以先形生謂大
八別矣
熟産生大八別次六小鴻合十四ヶ鴻
其八雲之小鴻皆是水沫凝而
成者也
四[illegible]

源の文の間
秘 さてもあるよあるねとあり
いとさりしきはとれとあるあり
な 是は清原の清原をあるあり
言れはを八女別當して 秘日
言乃はを事を八
秘 斉言の清原と女別當八弁言れ
別當と
な 言れはをあり八女別當ことを弁
言の女別當八定家式にみをあり
斉 女別當八弁言の別當と一部 今世
に院開白家なるに別當の局
としてあり
たれぬ 小はは弁をに中なりは
なるはまりやとも
秘 なるはりしは有のをりと
をんとすとと
此弁言の母清原一源のをりね

然し我みちの跡にさて又のはなり
れはなかくしきし源の思ふを
みえわ来れ詞よあり
此ありさなゆしうて
今日禁中にての御式なるを
らうすそうれて
源の御事にすてうれてし
侍れくになりあ
秘
二条院にして其比のならひとなし 弄

宮れはるくわの
弄
帥宮の此へわの心むおもしろき
なわ 秘 此をさすの下句といへり
河
みすからも云上に宮の此を八女別當
てしみえわ源氏とし宮の此手跡
いななる文女別當の手跡を
まとふ思へよしおなひらいし乗て
こきりわ我月ゆ称元とし
今案女別當の手跡なりとも女八

[illegible]の清和[illegible]歌勿論[illegible]のおとうひ
[illegible]ハ[illegible]れ[illegible]其[illegible]ハ源氏の
[illegible]あ[illegible]ぬ[illegible]れの中[illegible]
あ[illegible]な[illegible]ま[illegible]ま[illegible]つ[illegible]
[illegible]あ[illegible]く[illegible]
又同抄にやし[illegible]れ[illegible]源氏[illegible]
方へ（[illegible]）[illegible]
[illegible]やすと[illegible]
[illegible]

[illegible]ま[illegible]
あ[illegible]家よ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

校

わらはのはしたなく紙をかきすて
ものゝ紙にはかせ給へ
いとをかしき紙なり
はしたなくもてあつかひ
はしたなくもてみるべきの
ものとしてはなし
世中さまをれハ

校

はしたなくもてあつかねはしたなく
のようなるものなるべし
世中さまをれハ

はしたなくもてあつかハ
なるものにはあらず
みてあいしてまゐらせもあるべきを
校
妙之法華経の
しなり 寿
公ようくらあり
はしたなくもてあつかハ
さるの時よりはいとはしたなく
世ゝの事まりのはしたなくに

ばくてもあるべき時より甲斐時より
とあり　なるべし
やすおれらしにのり
弁　花多くたくり
心　神主もいとをあくまで酒すべハ
酒気毋いるれなすて神興にのうり
ほの神文いかはよりなるべ
毋酒を飲そハ　ひてくらりまるり
て同興　して内へ酒いりる酒形わ

酒の行事ハ時毋后の時同興
あるれいなるべ　ハさいや酒興
ハ葱花として風輩ハてハなて一
ちれうとねてうちくらを
酒興の山ハ　ようまるりこれハ
沖車のとれちくれうこ
なり　主上ハ酒禊の行事式
法社の行事なるべ　ハ酒あり
神文事ハの日ハ者への時

も則葱花殿用らるるなり
秘
幼稚なる少しよ同興あるべき仕御
不審あり幼稚とハいひ状ながら今
所言ハ十四歳ゝ同興の仔ぶと
却て終り仕法事の法法よ
却よるるなり
同士同興のよ遣遣も不審ゝ
ちゝ却れるるるるるよ
秘日
年
此度の父左の事ゝ

此人とハ后おもとおひ法ひ拙式
却ひけさう 供宮の同興より
て多行事 陳時のゝ多り云会
のるなり
世継云忠平殿の御女 保明太子 京坊
此度ハ世ゝの御女京坊
御位ゝきハ失法ゝ成ゝ
うゝ云しけ事
十六まて三文
故

[illegible]

抄

年紀のまつ[illegible]

年紀をしるしたるハ[illegible]ハ十六

まてなるに[illegible]十七の

やうに枕草子中文とはなりけるつ

なりけれ[illegible]前坊にハ[illegible]

[illegible]十二のとき[illegible]

[illegible]院の立坊ハ保元四歳の時

[illegible]の東宮まてなり

[illegible]にて前坊とハ申

[illegible]保明太子[illegible]一条院なの

例なり[illegible]日

玄宗未歳始選入宮時十六今

六十

（東京府上野人 六十四歳）

[illegible]

寺

此五百の仏中に深しきを

秘

今日八坂云なるゆへよ四事を四

秘日

ひ出しとすれとも多くきらう

武拙市流にその名ハ神の字義

りてゝみ法一わちはしめとして

にちひ又その分れうきさを

深くあひ初しゆうなるゆ

ゝ光ゝ又九宗義みなるれ

ともゝ一

ゆしきを深て

五拙に通ずる詞之字をゆ

之れともむこれハ口くしきを

なり又稱尊の仏を多用ゝ

いまのゆしきハゝ仏ゝ

みゝ市仏ゝきゝ

牛蒼流なりけ竹の事ハ拙法の

未をみゝわをれゝ

せゝなりなり

ゆうれの所にてたてゆうり

秘花ふくりゆ

其後所主西川にいてゆうりとき

こうめりて天皇八荷に幸して

先大拍夏の拍房 小安夏 にあそ

ゆうて常れ西衣紋ゆさて帛れ

裳東に沒行て大拍夏に申行て

高侍座の東侍座に東はさに

侍さ行中侍座廊をなる事

ありて三段大位義人をもて所

主高侍座にて紙らを作す所主の

所興ハ新表門より入て大拍夏の小

れ壇上にて興ゆりありて別東

わのをを合南西の座より第

ま所主ハ三すゆ地すれ

ゆうこゆ月を先れ紙こ月

てれれ紙けゆいしけ

なれふりて髮あを紙こ沒ハ

す女房に性をすいとをうれ時ハ
はなれていろ庭よ長す次天
皇ところ式二ところ巻ハ納て版
位ときくこの中宮ところあ
す五民に男にすみりて沛
帯ところ又作の方式うけ
あるこの次の綱の柳れ巻式光
す巻人ハ内ハふ作て元を
ここ沛ろ作式うけ白いて内裏

すみりのこのつきりとすれ
の時弁上内ハ(ぬいの)宮女房に
性式さして宮殿す天皇巻り
入ろ物をとろ世宮て京式方の
をもはさのこのみて作すわく
しれ宮とハ内ハ元をのとよ
ろ元ハ度ハ大殿の京式を
ひ元て堂上して京興わりて
昭訓門ろいて京都使長

奉送使たちに行列に
の件の櫛に義人形相
作て黄楊の本にて作り心
なりさ二寸ばかり金箔にて松葉紙
荷箱に立てり方四寸の箱に入る
数多の刀文にて出額のごとを
拵へて高に置くと等

群行儀

何
奇 王氏興長高別長門外解聖本
平依石入自其門自大拵後小西東
戸下出世女房出先下自東出
訓門持儿丁出奉舎主上所行櫛
不令落至数多納行し其外毎
日立氏興へ行櫛持参自大
拵後東戸奥興出出訓門出
第拵付聖本拵し又云小櫛長中
入櫛へ時義人墨摺紙献へし
白河院御口件櫛更不墨紙只入

云し或云詠を摘て摘不後年歟
直出給て花園左大臣と大炊右
雅具云説
辛
花多にくりさ繰返しあり
あれふて
辛
天皇大極殿の西廊東の廊
にて筥に入り摘式ゝ せ給て
弁を以て額にさゝ て宣旨を
ひさ給なゝ ものせるあり

八省にてはけうゝ
大極殿のなりなり
八省　中務　式部　治部　民部
兵部　刑部　大蔵　宮内　主
孝徳天皇大化元年二月始定
大極殿を八八省院とゝ八省省
ゝいつり八省のなかなりゝ
朱雀門内一町あり南限冷泉
小限中御門東八東坊城西八西

坊城をうらうへ八省の東より大路を
廠西に豊示院小路中和院小路あり
なわおもて八八省は東路にうへ
[illegible]
わたくしはなれ申む
秘 はれ見下の[illegible]され如房にうの[illegible]
[illegible]す後上人[illegible]ある[illegible]
[illegible]いてまひて
秘 さうの時より内にさうの[illegible]あるしう

時刻のうへうへうさゐみさ
月 年日
二条[illegible]うへ[illegible]
秘 二条院は[illegible]
車[illegible]
[illegible]
秘 所王京興出服訓門至八省東路
南行至郁芳門路東折至美福門
南行即出東門至二条大路東行
至京極[illegible]洞院[illegible]八西洞院[illegible]

東洞流ともいふべきの子細は
はじめ巻に出すべきおくりぬ第
十巻に出るはじめ式みたに二條
流は二条の松原京極の東之社主殿下
向は二条の大海より東洞流
へあれまつりて下向はじめ
なり
社家下向事　一都さわあれは
一代はらたしもみ立ちかたはさま
はしはの社家はじめは式部丞家の女の
はあるはらの中はあれあるはまま
すみはいかはせもとは社流は
おなし村上は十のはらおくり海と
選子門殿は社家文不お暫事
私新く　第元花押三
さう本はさうして
西口(はの)二条の社家に榊はさして
いせの海あるひろはは海よひろはも
　　(参恵集)

今ハ名なく初瀬ゆきの礼

秘事

吉野山

原

ちりすてゝ身はゆくとすく川やゝ
せゝの波よ神くめぐりけるや
ゆくゝ西ハ三ちらうやうなりとも
さすり神ハかゝるとゝ之是ハトれ
ゆくゝ西ハすゝ川ハ八十瀬として
わゝら川ゑれハ神のめれぬさとは

おゝとゝめ行やハめしまし
とゝ身ゝすゝめ行人ゝの神
なり鈴鹿川伊勢国鈴鹿郡に
ありミし
せゝのあるゝさゝ
国玄ゆゝ西ゝれ
ゝりあゝゝ
礼文あり

延六年五月末

すゝ川八十郷の海よりあれくす
逆ぬてふれうおのひとこせむ
（秘）あれくすしハあれもせよあれすも
あれく
ゆくともあれすもそひをこはるへハ
あくとくそらうんあり
（河）すゝ川やそせのえをみなえ
ちくさまくはあるへるよ

あくも　貫之卓

すゝ川やせわたりて雨ゆくら
ちくさにさくん書あるうに
もそそそ
（秘）橋の中なしハく　はるあるを
ゆさあく
（河）もそそ流てうあれハ流
りあるよあそれうこうの河を
ちくちくあるて又紙書の中

にも侍らず雖のあるまゝ宣事し
小野道風筆法師の山筆大門
の額を雖ゝ
ものゝさまゝ
やあてなるもハあてやかなり
筆のもゝすゝ
此額
とく
一 年月日

私河義雄の義なふあるすな
の義西日ゝ
なりもや世ましてゝ
おこせむといひ
なわ
ゝりいゝ山りて
年
ゝ羽寮の京寮本ひ
ゝ

原 行くゑなるあもやんとのあきハ
あさくらやまをさくりかへしてそ
秘 あきのくさくさもかりあるくと
みるそわなしりり
みれしひにし
秘 紫上の方へ
人やりなる
きあてそうあるいくみやと思ふ
日ゆくへさくさくもやりにハなりて今
又ゆりにあ花をハ人やりなる
ぬおりひとりなり
原 て桜のそハ
秘 原ての朝妙へ
同之足より芋子地〻〻式抄日
院のはるゝ
相蟲帝れハ脳へ
よりされ知らにし
院の主宮 冷泉の帝 大君原乃

年をみるに朱雀院の御時

年ごとに年をのぶの御賀

侍りける世ふ

桐壺のみかどの御年世にかりそめ

めしたるなりけりと

世代まもりごとん

まもりとせんの母

世中をうつしさ

いつれをみかはの年ごと

私寛平遺誡之

左大臣

右大臣

内大臣

大納言

中納言

参議

政理之

桐壺巻にあるべしありしまぐ

女御まうのぼりさ

筆者の初ぐ

みやいとうもし

朱雀ぐ

さうにうくやすさすのまうと

朱雀の院へ入れ給ふ

はるゝも
業薩のはるゝなり
ゝのゝく
相院のはる
ゝゝりあきはいる
はのゝりあく還幸ゝすと云
幸ゝ御式ゝゝくゝきなゝ八清
ゝの海なゝぬゝり
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

冷泉ゝ
秘
行幸ゝ一度ゝゝゝゝゝ
紀日になゝゝゝ
はゝゝゝ行ゝゝ
東文冷泉ゝ
書部王記云延喜清門院清涼
ゝゝ云ゝ業薩院七八歳清時
男臭信云十時左右
門主上はゝ西ゝ時同有ゝ

作一者可專神事二者可仕法
皇三者可同左大臣訓四者可
表右人之外一ケ条伺忌却之
言語退出之付左大臣被申四ツ
地記正文所之ニ
也ーとおもひ
後ノ人ノ〻玉言ハ西なり
ーー事之ハ
あしそ

はんみきして
相はんの はんみきとて
ちゃみきと
ちゃみきの事
延喜はんの家はのれ業は同じ
事書ハ記ハ海よくりしに
れ作り
私法のいきをかくあるまきとう
しるめるこりはんの事は
ものあり
いきものあるはんの式
私有畫如
ものやうにまわりあるべき
酒へもはんの事薩へのちゃの事
ちゃ法へはうしろみあるべき如式
て式はせとうしろ
うけてうせ
ちゃみきあり

あるはとふてうせ給ふ
う
院のおりあるべきうち
玄宮はいつれかいつれおてと給へ
大きさきも
弘徽殿皇太后宮
中宮
入道殿も中宮
私はすれ不審
例有

くれさせ給ふ
太后の御ものの給ふ
くれ給ふ
私はすれは御書の筆跡とい
方達の中宮
ありとてその義はふたも
乃ふあるすれも弘徽殿のよ
公宮
伝代させ給ふ

伝式さりて世の政をおこなひ
り源氏の世例と成しの事
連綿なり　并秘日
書ちはいとさらにさうありお
りて
秘
二条太政大臣と弘徽殿の女と
并
右大臣　但太政大臣と　左式こと
例　若ちりあり　みなおなち
おなじ

二条右大臣　但太政大臣載川入た
大臣元亨四年三月右大臣被奉
任云但太政大臣　載左大臣源融
例
但漢書云　右有羣臣羣ハ之故
なりと故ハ難と是式部に用
れハ綱と法ハ法ハのはうと是式部
に用ハ面なり是と人れ後面の
性ふとこと　右面なり所ハ

臣なりしをみてうり朱蓬流
ハ忠臣なりしうちさるとてもあれハ
性臣なりたれ共政を捕りもち
ゆへうちたにハあらさりてや
私元此物語ふハ漢朱蓬惠帝に仕へうこ
とあり弘徽殿太后を呂后に比
してもてうり惠帝も其性仁弱
なりしいかりへ人よりあるうれ
ゝ弱性りハ悪く朱蓬のはんに
弱なりしあり
御女化

うりとみてうり 判可

のちはみさなりて——仕うり汝

つゝ
ほの
孝事 日本紀 海浜　　孝事　　孝養の
事や
抄
孝ふまや
ときわなる
源ハ法ゝられ中にすれて
しめ給ふ用ときつゝ又
別して孝し給ふ人あれ
よみてまつるあり

花のはぞに
ほの
織衣 和名 ちゝ云ハ服者の義也
なほ花ハ花の枝ゝ
市素服に布紙用れ此道上ハ
八日易月ゝて十三日素清して
令服ゝ又裁麻ゝて麻布を
月孔僧の義する是衣も佛のれ
服ゝ云 仁明天皇 嘉和七
年六月矣未 太上天皇崩よ

清和院天皇 陰素服著里絹帷
冠撮深帷衣 以陰朝臣麗及屏
風孫 弁 月 星 深 布
とそ
を年八葵上れ 年 ハ又
るあり 秘 日
あしれ日さし
世のうれ失みあ山ろいむよハ
なり人 日さ なりれ

弁 紫上夕霧ホのすと 秘
れ日十九日ゆてハ女れやすあら
みの院よてれ行あり
七条れ后のうせ行よりのらと
ゆりり 伊勢
后 ちうら波あれのうと海さう 宮れうハ
物れりみちと人へハをの高へ
りれうはし 相れ門れおうと
し院なり

きたりの世日なれハ
はるかなるの事と
あるべき世中
雪霜の元と
あるべきさまの
はるかなる人間
事なき様にこそ
すみうるべき様
なはかりのわ
のはかなき様
なり
てもおそ
相違れみる
のまもおそ
らわ
あり
あす
ハ三条の
松
ちつかく
山里亭ハ三条

[illegible]
[illegible]
業上の又後つかの兄文
雪[illegible]
時節のあはれなり
院のしらやうしく
是[illegible]桐壺みかどのおもを
院[illegible]
大将後[illegible]に

源氏は此時はいけ淀中にさへひ
[illegible]
[illegible]

桐院のはるかに成ぬ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
院よ[illegible]
[illegible]

秘

下葉ちりはてぬれば
なりさはなりの
岡とうれしかりわ
つまりて夢ゆめ
松ハ君子樹ゝ

河

さえわたる池のう
みかけ
寄
おもわ
なり南府の

おもかりうすなりさ
あるりてあるれなるや水の面
に志て見の文さやうものうち
ぬおもけあるや
私古今源国の池ぬりの
見ぬ
のぬ面に志て見のさやうな
さんみけのおもはゆるか

河

大和物語式見ものあるよ

[illegible]時亭子院にすみ給ひける
のぼりふ道豊さまにわたりわた
いてゝ[illegible]の志賀にわたらせ
給てのちの世にながれをみふいとあれ
なり池乃面白きにあもれなり
[illegible]ふなり
池は秋はなれなれみりて
新みゝ[illegible]わかさ
私河に五月雨の詩[illegible]略

秋
あもりわたくしは亭子院
天暦四
うちなして五月雨水をあつめて
みゝ人なけのおもせをゆくか
何は
[illegible]ふりは天の河ふねはあをむ
そこのもとおくゝわたりをん
私は[illegible]ある[illegible]
そのつのそにいとあ[illegible]
秋
亭子院
[illegible]日
[illegible]せ[illegible]

中宮御所の御法はまてもう
ちうはうさまのあり
あるさ文ハうりて
辛 三条文 秘日
はさとすみこうう
秘 蔡巻たしこうう人のやうにそひお
ちうはうすもあり
さて皆時の星位もなりしなり
いまあるしふあ月すま心

私ためて接ら三郎なと西日
くうりあるれあり
うりうりあるしと
辛 源井三蔵 秘日
なのまめうき
な 天下喜園のうすなり
ちうくのはなしと流の内時
秘 はは位のはし流の内なるふ門お帝
なるこもいうう引うう三うう形う

盛なり
私流の流時とハ桐流門の流派の時
のすゝしろのおもむきがちあちは桐
流門乃流派をとり捨てゝ改とし
ろうめしつれハ僻の流おほしもり
りさりしなり
みやこのわたり馬ゆきしきすゝき

弁　む
二条流なるべく
門前零落鞍馬稀　路也行

さひふとのねとのゝうちおほし
みやこ

弁　む
三ケの一つゝ　秘曰
これるすなりとひつる
すなはちハおほくのハまつすにて

は
後上宮玉人の名字ならさる簡　号曰
活簡　と頭の装束たるし
一説云一年中れ云すの上月代まる
して官家より云家に執柄たる

家より献ずる袋草子事
此事有付秘説注別紙
ふいをくことなりふて
もの言ふあくれるる歌
いまりかくしもも
連てにいまりハあるなりて
おもひ合の法の法
秘
よてらりそひなけくこ
或物院に院崩御さまひてこ

ちりはいまくくあるこれ
すの巻にも海ていふあれゆ
んとあり後成公こ紙ちてあれ
ちる始此をしあれあれ海
て消ぬんつゆのタくれ
秘
みくくものハ
朧月歌
秘
院のはおりひふあまたなり
秘
もの高砂ハ院のさかふ居り

なりくらそのの國にて勝月殿
高砂なりさいはなりの
院のはおもしい人やうれたり
やんとおくまてなり
えしり勝の神をいはり

私勘

御堂関白

- 一女　彰子　上東門院　一条院后　後一条院
- 二女　妍子　三条院后
- 三女　威子　後一条后　寛仁二年二月より尚侍　まてもり給ひし　其年中宮に
- 四女　嬉子　後朱雀后　元れも　當侍

私みたの西をハ高砂にて幸に人の御
后くさくらに
寄仏殿後の右后　秘日

秘
大器量ならふおくゝ四十之自然の
はたらきにハ物之意を用ひ之ゝ
用ゝふ弘徽殿之ゝハ之の用ひ
すみ給ふなり
とゝくハ殿のむゝれゝりつゝ
物之意 凝善千舎 弘徽殿登花殿 皇后所西殿 女御上曹司
登花殿ハ弘徽殿のひかしあり物之意
ハみ登花殿の西にあり以れ者
ゝゝき殿舎やはれゝゝハこの
月人もすまれ簪にむもれ
ゝゝさゝ給なり
秘
登花殿ハ弘徽殿ゝりも奥ゝ
ゝゝ殿ゝゝの弘徽殿ハゝゝれ
ゝ花殿に簪にむもれゝゝ
ゝ月ゝゝれのゝゝ形ゝ
寄
朧月夜の登花殿におくゝ
弘徽殿ゝゝり給てなり図朧の奥
ゝゝさゝ也殿に住給ゝれ

[illegible]弘徽殿へうゐ侍り
[illegible]の義門院
[illegible]ひの内ゐ
[illegible]ハ
秘
源氏寄通のる 秘月
[illegible]ハ
[illegible]ハ源
[illegible]かよひ侍る中納
[illegible]房こゝろ
[illegible]

一

[illegible]ハ大[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

よはの秋はかりなり
みさりはてぬ世のうさに
源のゆるるもぬるるもの身をうき
秘 うき身をはてぬ世のうさに
たちはなれくも
源の心
たのもの身の
秘 蓼上れ又心
こひもれ秋

秘 阿蘭陀 文選
是ハ文選ノ
上都賦上上
蘭陀而棲
金壽より
心ハ柳カワリ
花ハ盤園
ノ角ヲ三ツ

秘 蓼上成牛蒡流ちりけりきあり
しを引ちれて源へさきあり
車と 弄日
おくれ山中も
弄 左右大臣中あ きるまと 秘日
秘 そそしらハ山きくなりと
ほうぶくし 蘭陀 文選
ひろ海にて
左大臣の巻 一 終なり

きりはら

今は又右大臣の政大臣になりて
執政きはめ給ふ栄あらきなりとた
大臣のおもいのまゝなり
大納ハあり[illegible]ひ[illegible]す
秘源ハ左大臣の[illegible]ゆく一腹とて
しく[illegible]なりあり
さまひ[illegible]人くく
葵の女房きさ[illegible]

いとくいさつさ
左大臣の一腹源氏にさかりつつ
きさきさうなりあり
さきりあさ[illegible]れ
秘故院の[illegible]世ハ出仕[illegible]
[illegible]てみ[illegible]ふひ[illegible]あり
[illegible]ハさも[illegible]きり[illegible]
さいう弁なりあり
弁源氏と院のあり[illegible]

くすくにたし給ふもあり
世のさまにかりあらゆるよつてみ
てうもしてをきくうをみと
ちみこもはよさあふ
世の又ちからあるの蓼の葉の末はい
蓼ちのすわへしてみくりい
つてもはそばのまりてその汁
に世の又ちからあるの蓼面に塗る
れへ

むちひくちれ
辛
南膳く
河
南膳す　子俵母抱　史記
子俵母貴　ムキ仮
ほくほくの竹方
秘
五ちの文のとれ竹方　ちすうしに
はすよりわ
ものちわにとさうり
秘
ちうさものうちわなふあるさ

同書和語ふかくとけたりとやう
なりといふ
年 却説うたいのみすみ[illegible]
語ふ曲服を四[illegible]
所流ハ[illegible]
校 流の崩れ[illegible]
の女三[illegible]
のようなり 年日 [illegible]
年 一説 樽所流ハ相童帝のはいり

それハ狩服なく七日の服三百れいよ
なれハ[illegible]日数ハ[illegible]
うもの[illegible]ハ[illegible]
孫王 孫王為所流例
[illegible]子円数王 文徳孫子中務卿惟彦親
王女 仁和五年ト宮[illegible]孫王例ハ一度
の[illegible]
[illegible]
延喜所流式云 若無円数王者依世
[illegible]簡定諸女王ト之[illegible]今案ハ[illegible]

諸のうひ延喜以後のうとハ例よ
ひきて延喜以後ハ皇孫のとなハ皇孫
とふ紀ハ孫王の世流に
たちなるハ稚子女王高子皇
の月ハ世の例かしめよ月
くしあるすとハ之ちなり
秘 ちうちうちうしゆ花名
説紙〳〵幸
大将の名 の義略

秘 権 弁流に源の公けなる事
やはなちなり
すちとふ
秘 弁流になり給ふなり
中将ふとつれ
秘 権のつひ給ふ房なり 幸月
ちうにうろ
源の事之流のはなせぬはうなり
なのふとなり

礼源の法おほしめちかひさうと紙ハ
紙ふらけゝ侍くぬともあり
みもしハ院の法ゆいえ
秘 朱雀の源氏法るしはおつくしまえ
へきけん紙く侍しまさしねとも清
紙ふつまさし面白紙かりて后の
ゆれ侍らり事あるしともあり
是ハをしへくなよひさうさかり
まれいるみましきよりし第草れ

みもしハ大絵面なれハ小絵きりもう
にうへすして主上法らく面に侍
ませは治下ゝ人からしとていさく
りよりし紙面ましくもしゝこれり
よしあへハ

は 史記曰 孝惠為人仁弱之

母きさきおほきさ おなし
秘 母きさきおほきさきおなし
弘徽殿の又太政大臣になりぬれと
みかと一本おほきさきおなしとあり
おなしことなり
法界ふかくゐ
菩薩の法心の御ちかひゐ之

わたりしきの御されと
法の法界上のまゝ菩薩ハ法之跡
略御しまさねとも法心の御ちか
す太后太政大臣なとハ法之おほく
おなり給ふわされとも執心への
事ハや御ぬなり
人これぬ法仏し
秘 勝の心法ふかうふかしなり
然これも勝のみさき仏法ほし

めてけり
大こんのみすはりのくらめる
大壇は御法　不動　大威德
御三世　軍荼利夜叉　金剛夜
叉
或抄は說に大壇の中御法として禁
中にておこなはるゝなれ
家にていとなれるゝ不動を中壇に
して大大明王の法代御せり

いまは此事なるべ
けれ　みしかの抄
みしかのけ　しみおくはらひまるべ
このひさに法のまいりまゝ
むかし　抄　弘徽殿のかたへ
花の宮は東の
中納言　寺　勝月　とされ女房　抄日

秘 源の公方のいろ人なり
ちらおれたりしら
秘 源の姫君中納言君の母君此こと源
いそれとも有之
朔夕よみて源ろ人に
并 源の高陽公 秘日
秘 草子地
笹出朔夕と云より草子いそうハ
おなのろんといはまてなり

をきりあるうちハ
朧ハ源くしくちなる式つ
してうは朔
秘 いさらくちなるし
笹出姫夫をうの母
くこうにしもの弁ちまりぬと
こうくるあり
何 遠東行のうく
并 同云この弁ト時ハくるりや

同月一部

私是ハ近衛の官人うたねゆきの
弓夏衣れたる中ゝ上
ゝ代ゆてゝかあり
くゝくゝうゝの歌作うされあるべき
私是ハ初語の詞とみて名うに
ゆハ源のかよまあるありふ近衛
の人ゝかくれてあるなるべしとま
川歌ーていゆあり

ゝゝきゝなれうゝ代ゝ
ゝゝとたねハきゝ
私別人の近衛月をあてゝ名うに
ゆ代源ハいゝたねまてあゝれハ
名うにきのひてあゝすう代み
あゝんと人のゝ〳〵ゝゝ
うゝやと四まうあり
なゝゝゝゝれとハ月年紀に見四と
代てきゝ代ゝあり

[illegible]こたりあるさて
私是ハ別人のうれてあるつる迫来
又我なるひいてよの井戸しるし
なりさてハ俗説なるつるりてハ
なほとおもひなるべし
私は俗説なるれ極へ秘　本の義
同なれとも俗をとけてはるるを
別秘秘の義載う

辛
ヒ東宿亜戸れ迫来ハ亜東大ある
物の名ぬるもの井ちう三その人を
ゆそりとヒこれ物語にいるハ迫来つ
きのうろうは流れあるあり
うんを紙とこの井戸れ迫来人
ものつれてこのりりふて
こハ流れ紙大あるそれて乎迫
あの也よなるまりりとハう
なるとうハ右迫れこの井

ゝなり此時源氏も右大将ありと
義又云沙汰ふ事（こさたあるう
近来作らされ候みなおりゝ傷
人の源氏のくれかはつるとも
あゝむとて其為人（ためこのう
あるとゝ源のこゝろ
れ世界にハゝぬとかれとさゝ
くゝくおもひいさ海上あり
秘
此東禁中に大将ありていかくて近来
月代人紅ゆすりあゝ
こゝれとは云冒なりゝのたつね
ありくゝさゝめてこれとれて
あわれ源氏云冒なるゆゝ源
ゝゝ人れを大将ありとに
りゝ月のこゝにあり源ゝりてゝれ
ゝなりめゝゝゝ月すゝれ
ゝゝゝ月て時代ゝあり
私云秘の義加年五分いさゝゝあ

蕎麦はかくうく近来見て
あるべきこと也 俳諧の味はひ 蕎麦
なり 俳諧の味 近来作りさて
あるべきこと也つ 秋〻 うち蕎麦 みち
なり 俳諧〻 はたのかるみ 海へうち 近来見
はたのかるみ 海へうち 近来見
はたにあるべきこと也 義香
夏のせりの 海サわ須
私花香 西文 小山ノ蕎麦書く

隣月東
ゆうべうち神代 すうあと
とうあり 琴ふけても
なあ 夜 あるべ 代東

の道染ハ作りなれと人成あくと
いふことふきこゑ一ハ人れを
一ことなりすゝ神式ゆすり物
それといふをわり作り此事うち
とゝみ作り
只今ゝ一つてけ作ふりて
あゝ神式ゆゝ
慶にゝ世てゝあり
神式ゆゝすゝとハいふり

ゝの人れゝ明日の見たゝ
なり
ゝゝゝゝて
勝のゝなりこれを風流ゝゝ
きゝゝゝ
さゝ作ゝ
原なけきけ
ゝゝわり世はゝてすせゝゝね
のあくこきけそゝゝく
腸のあくハ作よあゝ式ゝ作り

腸のあくハ
ゝひゝ作ゝ

秘
むねあくと人ふあるすなれと
をそくこそ我はくてはくるまし
さしく年月
ちりぬるかくて
陸のさかりあるやうに衰へ
人しさくれてさかりあるす
あるわれのさきなるへし
ふるさ晩月花の
おもしろきはかり

ふるものあさ
ちりにさはひ行へ。しを人
よさしあるへし
義香殿のはせりしもの
義香殿女はハ先雅院の女也今上母
母又ハ明石巻に右大臣とみえ
ひくらのたなるなるのようり
秘
南今 先雅 也母今上の也母と年
頭中将

弁 墨の黒なり 秘日
秘 以中ねは以サねは 茂サね種々の異なあり
私云 三ケ年ごろのサねとあり 以の時
八中ねは薄てしサねまてと ちうれ
なり 茂の字れハちうサねあり
の字式入てうす 弁に以の
サねとあり
茂は以ちいて
私云 第香茂の位おくさ元年

まてをおくりん こそ
源之
もとも笑ゆ
ちうれ世人笑ゆ
ゆうけうあ ありこれそうしく次
十の巻をうさ 半さ序うあ
第子の地を
ちうのうにてけてもとてるれ
弁 茂童子

校 花つ月のゆるすく我ふつまゑ海さ
すゆへよ志のいらるすとなれとも
ゑるすゆ此れ海ゆ行海ゆ六ろ
くさ名しらゆへ志と
私云はおよりもきてこゆるもも
おわるゑんうしと者ゑたいつれ
とやうれとりのられまて
なる代源を志ゑりゑ海へりと世
りハみゆ

内ふ海ゆわ行ゑん
花つ千のるゑ源よハおすゆ
志つる代みそ海つる代
花つ千のゆ世うわ
志ゑ坊ハ大月志のうちなれ定
ゑくさゆ世の
源の花つゑく鶯通のゑ
いさしもりれゆ行ん
ゆ(む)源と花中ゑうゑ代故院ハる

に志せおくさうしまき　秘曰
秘　蔵屯巻に世間の事みうり
いとおもしろうさうに
茶中文の心
春文のたぬふ
弘徽殿はいらくやくおくるる
さの事おもひやるせ
伊勢物語は男いふせんわかるる心
やうくやうくと神仏にもりれと

いやはてはりにのくなりきさりつれ
ちりおくこの志くのこと侍れ
法湯師ゑんのれたひく志せと
いふくくのくしてはるかる
へりやうにいとるすきさ
さりてあり
くのくあるくれハ
志ゆくとみ河にせ
神ハうけすんなりにくしし

といひてなむいさりの
舟の上浮舟巻にもあり
あさぼらけうちなびきぬいはすの
源の篝中納言のひとり言
私まゝにうちもすれはいはしひとつ
ゝてとあり源ハこゝすなわち
浮舟ゝ
きこえてつけ
源の詞ハこゝ浮舟なり

図
篝のやり
ほたるとハ
篝火也

はれもなきいろなるやみ
篝中納言ハこゝ宇治ハ
ゆゝなり一こゝの寄通あり
はれなるけぬきこゝ
人々ハ相撲のおとゝ
うけたまはるこゝ
ありにてはれあるおとゝ
一院の臭なるゝ
うゝこゝ
世にれハ明そに

秘 源のなかせうはられる
あるべし 年月
三ツ巴八
秘 人の三ツくわりちゃ様之
ものこふ
塗箱
武州ものこ
文庫なるものつくりの様之業
義和語より伊周公ものこあ様
ものもくわりは下之命なるもの
源氏くしとさしうるわ
ものも
源のさうそくなるわ
れけおりて
前よくれくまえのはるさく
の平氏之ひて
ものこひるに

秘
はるかにてくゝめるこさなり
はるかなり
秘
ミウフトウノミヤ
弁
ミウフトウノミヤ　ケイブなと
ミウフトウノミヤの女ハ中宮女
秘
ミウフトウノミヤ
ミウフトウノミヤ女ハ
中宮女
秘
松云義のうち秘ノ義ハ一今
中宮ハ此ハ
中宮女を
女としるしいへき中うし

ふへてす宮の字をは無りしを
へたりて
秘
源乃うしこのりおくし
ますもしらせくしるりさ
はなるなり
人くもはんまとはさ
源のえ生ておくるしる
人は夜つ

ひとのおもひに
花つかの作
言し海て
姫
無つ之
ちらすなる世ほ人
つゆふかおちてくるめなるせ
ぬるおくかさしさきなるへ
いてさしてさしたん
命ぬ弁なるハ源氏いとまん事
と名おりしあるこ
君ハおりこのあ
源氏
みてさしたり給
源の屏風ぬそ海より花不と
みてさしたる
私の屏風のそ海
と俗名まてあり
なれいとくさしたて
三ヶ月ひや

秘 ちぢのひとりとよの歌

世やつきぬん

秘 我世やつきぬんとと

世世のときりしあやと

義村下集 おくりし海のりあく成行ハ

世やつきぬんけやこまん人

私はかをとひくにあらす

ときりあ

そぐ月と

ときこのときなと

現第のときかとしー

たいの姫君

紫上と

自はすこしひとれ

源の仏さはてハちつを義ときり

ほしうちつをさきりてハはなし思

ひけをよはさきといはて人紫の

くれまつ成思ひとと

といふを

春の夜つかよりはるかに年あり
和ごひはしるけれ
年
紫よりをん時夜つかのしり歌

すこしなくさむべきさまに思ひえ
給ふなり 秘日
なほうるはしくて
夜つか歌八首より思ひしみなる
わごひ物の別なりと
心まとひして
源の心歌おくめるをて人四丁ばら
へいるひ入給
おくゆりうり

花つかの山ぶし

ひれふり

蝶ハ　花つかの祢ぶ

みこにひきさ行ぶ

源のぶ

花つかの山ぶし

ふり

はるゝ式ぶ

ゆきすつゝうなり

ちく塚のかと

えのれいわ行ぶ式ぶとは

ゝひ実ハ

ぶにんつきぶ

花ぶかの山ぶ

ゝゝぬ

花つかの祢

いひつけ行

源のの行ぶ

さすらいみーと

源の級氏たちつかの尊にと申すこ

とも多く申しかへーとと

国土長家の侍ろ紙源をとみ

給へんと申せハ源の仰せ

ろくこと紙さすらいみーろさ紙

ハ申ろんと化者のと

ろりふけり

あくさりーまにハ

一ひの蜜通ハありーろ文、春と云

とハそくさうく是人奥化なりへー

なりーさろ

是人長宮氏源平なとふ源ろ申用

捨のにを申ーふあり

せあてさくひ尊くさんも

源の仰く

友つかの侍さーれなりーさろ

ら化つくく化ーさ化りー

おくれハそれぬ
きるてもえみ
人のそ〳〵なる
たゝりもしも
是より後つ
すた源の
うゝ同じ
くハ弟
ちうちう

ゝりとゝ
ゆゝ中すう
なのゝう事
ゆゝ出ゝ
物ゝれハ
秘
弁と命婦
ゝゝれハ
源の
ゝゝく

れとゝゆゆ行
なり
なり事ゝと
ゝて
ゝ日
ゝのゆゝと
ゝふゝ

世中はあわとこそ思へ
秘 源の詞 年日
みなの世なるぬつみとなりわぬへき
源ゆくてありそんとそうれ
やてこそぬへきはれとやされハ
れハちつかのゆくえハ世界
の花のむらひとなりぬとも
しの詞くるあそこのまは
ふみうり

むつかさはてあり
ちつかのはかなくはか
するこ
源 あしのうらさはこそすハ
れいく世経なはけさてつむ
年 やてこそ作りなんの詞なる
秘 やてこそ作りなんとしるとてよ
ありさとあるさはそあハいまてよ
へきわかそとなけさうこ

第三条よりそうすれとハ
人間のうきうらりといふ
武抄只とと申すたちめふを
りといふ仏さやてといふ詞まてあり
仏性のすりあの義もハ源と為つか
とハあふものうきさ中くきうり
けうひつまあさかとをみてし
と命れうきりそいふ只と命を
うりと思ひてそれハそあれ
きりなきなきなきハなれいう
まてうなくてものとそうん
月そとと
又武抄順ひよふれとりよきさ
うすりとハ人とあるあるりふ
抄世はきりとまとまれも
ふあふものうきさりめくあ
ふとりうまうきすりとあり
又同抄よ前ふふ世ふ〳〵ぬつみ

とかゝるあさましきことゝもの来れハ
生しゝ世しにあるものゝうきなゝハ
いかまてさても悔四苦とゝみさ
四つのとゝ
私は義ハとの世ハ先あるも
のゝ中なりさてハ安はあるひ
ゆくゝ世ハてゝへさ明るあれも
その安れハ生しゝ世たもゝあれさ
うゝ一ゝ来生ましても又
ゝれゝゝ生ゝ世てハいく生世て
ゝ世今分のやすしてあるゝ分
ともまれんとのられ世ひ
てゝのゝ一さゝ成源切り
ひのゝうゝゝなゝ一
世ゝ義私ハはゝふゝゝれ味
すゝに私はの義深うれ世世
なゝゝ義ゝひれゝゝゝかれ
なゝゝゝ又世釈のゝゝのられ

義よりあるべしーやあ

はかりしにはかりて

秘 はかりしにはかりしとおもひしこと

川辺十三

竹の上 みくりの駒のつてあれつち

あらして我はかりなりけり

松只浦のそひたるしてしたち

つかのはかりさしにたんとあるに

の結句なりうしー

さすふうちなけさ

ちつかのうちを人よのうしてを

在花香 なれは世のうしみを人よのうしてを

うちも仏式あるしたんしうちん

秘 人みちはちつかのあにはのうち

うをのうしてもも仏式あるしはのこ

つうしうしとうみ結之 寿

あざ多文字 結之 秘

或抄他なよりいんれあるとうう

なんとおもひてしこハ我ゐなりとおもすれ共其方のゆきめ男のたゝにも心おもしいつてゐ給ふ人へ
とおもひ
私は義不可説〻〻用〻すとい
へ給ふ

ゆゑなきさまにもちすれと

私は義諸物に法せん事にあの
間よ世中にあわとさうきけん
ゆゑ又世世なりぬつみとなりぬ
こゝ世に生し世世ゆゑ
へきさま又ゆゑなりさきく
間をはしらハこゝろみこゝろハ悪
業ゆゑにに源の行る代おれ
ちつかの色に生し世世の輪回
りなりへこさなりさきくの道

も人はなさりなせりてみりハ
あすはの仏ちりなり給つる事
なれハ仏式あるとみるとこひ
給とやとくとゝもみ給つると詞と
ひらつるひもるとと源のあをと
仏あいらるとハ詞ひらし
ていろるひもるさ仏ろ〳〵

いろ式おてまてろ
何と面目ある
いとおとあ月ろ
おちつかの仏式ひらくこひて
ろ源の仏神と首一おひ
ちんとあり
仏ぐはい井
源の和ひかし
世に仏れハらさて陽れ

世はれ　世はれ

いとのうけみち　みち　みなしてむ

秘　三右のくいとのうけうちみなし

てんのかまてのはてあり　寿日

武おれ　武おれ　なりやせふれとなぜ

に世ふハ　ちそせふ　ちそうさ

のはさうものを　をひていふの

ひうちとしてうし　世代のれを

すれハ又　ちのとれ　みとてうく

おくすうしてうの

秘　さの女若

秘　紫上之

うしもそのなうり

秘　ちつかの文なり

源氏　ひとり　時に乱れあり

なうりうへ

ううとうさ

是ハ源のまへ　あさ　ハ

命ぜられ候ハ
せなんとおもひ給ふ源の心ハ
ふかくなりゆく
家も長らのいため給
花つかの山中と家にてなり間
源の花つかいハ心をさ給ひ長家
ハいはゆるあり
り世代もさなり給てと
おやうく花すゝ〳〵ふり

うゝ事たなれハ
源ハ蜜通の事を迎ふり又家来
花すゝ花つかの心ハらゝ
源へつれゆくあるとすゝて花つかと
山中にうゝすハ長宮の内あ
うゝ〳〵さうとて又心ハ給て
蜜通たすハうゝ給れハ知て
うゝ内事あり内〳〵下給中
宮職とも辞退ありて居りも

なりゆくをうてハ法の
うみもおしと見しなり出
中なりし
あるさまのおろかなる事に
秘中宮職の事く院のたち居をさ
うして後つかさを中宮にさてをす
とそねみ給しかハさるをす
ともあるべきをすなりありてい
恐怖あるなり

事
後つかの中宮になりをす事を
弘徽殿のそねみ給事く
院の御事の毎年
秘玉宮のはらもなれふとて
中宮にたて給をあるをも
なくなりなりはり世れあるまし
いなり

せんぞくのくりんのやうにハ
しるすと寿ふひりの海よみて
うりくるるをりてれさ海は
戚夫人れうきめ式みなとハ
もくりんなりするすす
あるへしとも寿なり
戚夫人ハ漢高祖の妾類之如京の
母之惠帝のたゝ子にてありしを立
うへんとすしもつにるるる
すすて言祖ハ崩去れぬ惠帝
位式つき給て呂太后うれ
むくひせんうして戚夫人の腋
とめきて人彘となりけてく
やれ中にとこめてをれるす
のありしうハみくんとのやうハ
あすすとちつかの中之乃

太后とおもはれ給へる

史記曰呂后惑戚夫人　真子　新

田戚夫人寵辛足吉服御耳飾

唐茅使呂后廁中命曰人彘

関白のやうにとかうさめ給

へる

九代物語にハ呂后惠帝なきのち

をひきてけり　下ハ略

なんとなく

秘

茂つ子ハ出家あるへきうへ

玉文みそ海つて

茂つ子のはるかにかすみぬ時ハ言

とはまひとこひみそ海つ人と

ハすなわち

はるかにもさわるかすす

秘

源ハ中文の物語にも海ハ海

いさうあるへ九あれハ

九ちうちハいなあり

源の中と令婦弁なるハいと
おもしろくおもふなりけり
宮ハいとうら
秘 玄宮のはさまく 幸園太閤
私云宮ハ中宮ともみるべしいかう
うらうらおもふあひ給てといふり
玄宮のはさまなれ以へ一ふ
とみなりといふハ中宮の御中
文ハ玄宮とみても中文とみて
も義ハ同きて
おもふらすらハ
故つ下は紫のゆ所になり給てハ
四ふりなるへし内の御ものさ
うへさゆへ御ものこゝろ
なれとみ四意色なるみ給意
ひさうへうとも御内方のお
ものしなれハ又れよつてい
りこさ加れすとみ給ふへし

[illegible]

宮ゆきあるの
玄宮冷泉流や
私は海に昌后の詩に鴻毒を
海せしうしに代ひ[illegible]の義を
[illegible]暗く
[illegible]れて
後の世仲心
[illegible]人せく久しうん
秘
後つか玄宮人[illegible]弱 年日

私家[illegible]人[illegible]
[illegible]の
世[illegible]ぬり
玄宮の後つかのは[illegible]
おさなれ[illegible]冷泉に[illegible]
[illegible]
[illegible]
玄文の世間
秘
或[illegible]人あ[illegible]

弁
式部は老うの母なれば
うに母なりうとうんとおぼ
してのおく
紫式部日記より大式部うとの宣
旨年老うの人なりとみくら
れ式部のうの方をうりていう
てうさはなりうんと仰せ給へ玄文
いとけなく侍りませばうらのう
うんとある代后の事とはうり

給てふうにくれうんとと
おりひてのおくにて
いとうさはなりうんう
仰せうさうにはなり給へうと
玄宮のやうてうとうてのう
侍りあり
いとうひなくあくれふて
故つかの内の玄宮のいとけなくお
りー侍すれば中せ

それはおいて
ちつかの紙式のうさきとの絵
さかりにそ　　れうらふてハれ
しとなり
みハそれもみてくて
或ハ　　ちうう女うれ餐の
海かそわ　　うえ　　それうと
みしそ　　ハさけ居乃を代い
つるにや

よ弁ハそうのやうに
東西僧　　二間護持僧
円宴の二月にさうひもすう
かれ内ろ僧
ハく久しうえさ
秘　　ものハ紙人ものたさまあう紙と
陶あさちて
秘
玄文
ひさしおそ女

玉宮の御詞

たちはなの御代

源よく御経ふとく

ぬるきすへらん

さふらふらふしもかるかやかりかつ

しやぬぎすへらんともし色

こゝそ

女まてみさて御つゝまし

弁 玉宮の御すなり女よなりして

みなつやとゝく　秘日

いさらしを御とし経わ

らく源よ御ならるし玉れこそすとハ

おもしろくかわらく御てかり

かゝこさハよかれとも人のみやと

かめんとおほゝくさすとや

經ヌマノキストヨムベシ

世のかゝりしきのそらおそかしう

おもし経あわ御わ

同出第子地元
大物の君ハ宮様いとゆう
同出宮ハ出宮様ハ
或物ゆうつかの中宮
九輝殿童の事い
私云ゆうつかの先ゆへ
あさはら　さはんれかな様
秘　ゆうつかふとひ　ゆうせ　ゆへん
のゆへ

更材院に御りて御所
侍　和の雑宮べ　見ほ　うまんん
ゆゆゆ
秘
三条院自筆　三ヶ　被復加年

五十二代 淳和

五十三代 良房安世

五十四代 清和

五十五代 文德

五十六代 光孝

常康

宣世上人

遍昭

秘 河海序ニ林院ハ淳和の離宮之紫
或ハ墓ハ林院白毫院の南小野
皆もゝ墓の西之字治の廣義の
北に紫野にて林院あるゝ
みゝ　　お墓たるとおもふさ
ゝ本れなくハたのむ人れ見てゝ
みちゝ　　ゝたのむけるくも
ゝ　　と　遍昭のゝ

西林院まてさそれたれのちの
りの式なり

いさ桜 ちりぬ人一さかり　　前法師
ありかをく人のようさりみなむ　　仁明

西林院八清和の御ゆ
天皇に奉りしより法華経
歌を供須ゆ堂八彼歌をの室也
なりられ乳寺にして天暦り

寛仕僧都別当高に補せられなし
して林寺敬あり　ありさ清記りと
ゆ寺千手観音有霊験ゑし文殊堂
五原保元元年二月廿二日補せ林院別
当　千時秦泉住院位下　小右記云定
光阿闍梨を来給居西林院
天暦七年正月八日於西林院
令博大般若文原保元年六月十四
日始從今日於貞言院東寺西林

院蓮臺寺賢相寺講仁王經限廿
ケ日竟ゝ為其験なりあり
国史云天長九年八月癸酉奮駕
幸紫野院御釣臺院司獻
令陪從文人賦詩御製和
成賜禄有差新撰院名為
雲林亭
承和十一年八月癸巳幸小野
駐蹕於雲林院因覧池塘賜
宴群臣日暮還宮
元慶八年九月十日丁卯權僧
正法眼大和尚位遍昭奏言雲
林院者故贈太常康親王之山
宅也親王生家為沙門真観
十一年二月十六日廿院付屬遍
昭曰深草天院皇行此所天
皇登遐常康薨奚天圓拙
德判難報恩彼ゝ永為精舍

令学天台之教伏思之奈寺
永賜年分度者三人傳天台
之法門試度之道俗為元
学寺別院成親王之心願実院
中雖事擇遍照門徒中堪能
事者令其勾當　勅依清聽之

こはゝ　秋
桐壺更衣のはゝをとゝいと　年月
はれ野のいとなつかしきころ
やの山はれのふなまめかしきころ
女郎花

うゝさせさせて
つゝいうゝさ

書論義し

私書表紙ハ
あり
ありがたきにいと世中はかなき
私ありがたき御
私海美なりさせてきぶつそ
仏道に出ぬりすむよりあり
はあるべきあり
なんぞいとさ人しもれ
天のかををしあるべき月をしハ

いとさ人をもて志ありあり
年秘なる出川方一用
私放つの出年なるべ私ら
さ人しもそしいう私の字義
つけてみへしあり仏法
はとりとこそあるべあれ
り世のつるかさのこそるべ
られさ人なんぞられ人はは
すれはあり

をしあをうゑは月氣ふ
法師ひるのあうしてぬつる時ふと
ーあけくれの月く氣はの紋と
おうしあくうをわ
うくくとなしし
なれさうは高さ
菊は花これうすれ紅葉なと
佛はくをうみのかふ時しのを
お紫はもうて白つるありこれと

時むといふあり
あうくはいとあう
佛道のをく
さもあうれなりさ武
源のかあり
律師のいとうとさ
相更衣の兄源の
ねん山りをゆを
一ち光明遍照十方世界念佛衆

八カ月ホギ
分叔

生摂取不捨観元量壽

經文

なもあみだぶつとおもうたに
極なんとてそむきてきうやとく
先ひめさうの
同又はれみを蒙れ事浅思ひ
いてたまふなり
ふかきはんをうきうや
第子の輝なり

れいうゝぬ日をすもんとおくのを
三年同出ハ公りとおくとあり
なかはうゝくとわりくしこ
なゝはもゝさはせこれを
を角て法ゝうなしいなを
れいうゝなゝいうり
りゝるれしめゝやとき法ゝ
みしをれと
極是ゝわゝの初也

乗世紙のれ

秘伝

関白遊せられ候みとゝ

遊ばしなされ候こう

或掛物に流し葉の上に紙おりい

やりしられ遊ばしなされ候

くゝりかたさ内さしかけ

人をしりの中まとり

幾きくさうしろすあり

秘法文の書こ 弄月

いろふて

ひさかたの上もいろり遊ばし

なるひとてをうたてうたるる

おもこ

みちはにみし

弄月 便紙こ

ちらけつさ

関うさうに遊ばし

かみより

源

あさちよの女房のやうに書きたる
よもやあるしそたれ公なるこ
秘
ゆゑしさうにてゐたる法
一条院より上東門院へ参り給ふ
の上白なれば源氏の君公なれば
あるべしとて
弄
源氏の君公なれば
てよりわ式部卿の面白の物
下の公を世中たるべしとて

なるべし四方に散らしたる
源をよろこばせ給ふ人のこゝおはせ事
の同出説同じくこゝ
伺
はいかゝ
おはしまし給ふ日上東門院中宮
と申す時法
一条院御所
あさちよの女房のやうに書きたる
ものをそめ

秘

ちりぬいてゆくゑ出家をもとめ

出塵といふものゝ人百まん俗塵を

いとゝうらやましかりし

又私

霧のうへ白雲紙衣かさねかさね

風のうへにものこしかけ

はかなくも公しれ紙衣

女君し

紫上し

是紫上

あさらの未よりうたさうた

私

女君は我身を浅茅はさうたよ

たうてよりわ

浅茅

浅茅のうへふかみとは

我を女君のわうへふかみとは

はりあるうへ公未の刻りみな

武拙是いかゝ嵐をうけ世上は

ゝゝこゝとあまいもうきれのうへ

公をみてさるべきやいろいろ
ろりの花の時やうにりあく
源の山滅ぼしなれいの物ろか
浅茅ばしくなれあはれをそのちっ
なれあさらの霧ふるわさるか
さふのやうなれば風ふく波京
夢まりみあるそのわ月の流
しくばしく
ばていとおろうのちを

光るわ紫上ばの長の源宏
ほのおほをかこ
わのばそふ
源のふ紫の跡ばふるこ
おほるそそあわと
やしなしさろや
源のかみり
ふさる風をちしほ
けしきあえ行ろわ

河
雲林院は紫野にあり御母殿とも
いふ
秘
樣 母殿なれば殿ばらなどの
なるべし
吹ふ風しるきあまちるとふまで
降ぬれば
中将の君
秘
樣 母殿の女房なれば
く張の君
おもとの中将君へ書文代初
なるべし
おもとの
母殿へまゐりて
源
けまくいうしてそのつとめ秋
河
おりかゆる中をすぎぬる
中をすぎぬれば本縁を繼ぎ
もろ成ぬるなり
四年年紀分以天喜元年天月

蔭無為の縁

古語拾遺云ハ薩摩の手縁と

いふなり

秘 東院ふわさこそかなりし時の秘し

秘 東院なるゆゑはよけるくハうこ家

なれやうけ申ハうこけるれ

ともいふ義そのうこれ秘とい物

かなりし時又妻巻ふうこいま

ハ東院なるまこと

いなれうこなり

秘 秘かりかゆうこ思ふ思ふ

ゆうこれ勾し様なり行

事ハ秘ゆゑ秘ふ縁あるうこ

とい妻院ふくこいなれゆゑ

黄紙いまこと

河 いかゝ一代ふうこ

黄紙いまこと

秘 東院にあうこ

東院ハうこかこれなる内

しつてなれわれ方円
毋
毋流して流れてつらしとおもふ
はしの者成いとてはりくさはゆ
くこいはりなり
うりんさんのくやうに
秘
うりんさんの物ふしやらさん中成
わるしかるべれりかとこそ
尋
うりんの物ふしやうやの公こ公ハ毋
院にたりた内さんさいはりと
しふのこ行く事かり
なるまくしけふ
なのつこ代秋かりかゆかなと事わ
見しかしこ行るるをいなれは
見ふかしこ行るるをいなれは
ゆうかしこ
ゆうかしこ
きふえん
つこ代おさみこり代
毋
柳につらるしたるあかる敬
私源い形考ふと
なれいるこ

似あはしからぬ
心ちするに事かくに
中将殿の御すゝめ
無下に心ぐるしく事なくに
なるべし
しかるべきのこゝろ
猶の事はあし
つまじくおもく
ふかくなん侍
はべるめ
こゝろぐるし
おもしろかりつるとの
秘
無下にわいまゝにこゝろ
紀伊殿
そのゝちやいかゝ
小弄
源のあそなふ
なりもてゆく

丁 秘円

私ハ[illegible]

なふ事にてしかみ[illegible]百なり原

の方に[illegible]事[illegible]やうなれ

[illegible]

[illegible]せしに

秘 方の利わ[illegible]いさんを 晴円

川方未勘ちれ[illegible]せいたしら

ぬしいふなり

[illegible]わきりかを

秘 [illegible]

[illegible]

[illegible]ハ女[illegible]

巻ふ[illegible]

秘 [illegible] 春円

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たまなり
たくなるはおれてあるや
非事
非事はなくてあるなり　秘伝
おのれをしてく
秘　玄旨はこれいかなるおのれこそ
野はあるわれしれなわし
はあるなるときのくはなくて
あるべきのまことにはなくて野まも
しはおのれなり

あやしうあるものとも
む　あやしうあるものとハあるべきさ
はあるはいはるものなるなるね
はくあれはうはるはうあるはなるはあや
しきとハいてあり
秘
あやまりあるはのくはあるはあるあ
るあり　以下事ト日
事
非文非法はおのれにて
はくてしはるの非事なるく

あやしうあるものとも
む　あやしうあるものとハあるべきさ
はあるはいはるものなるなるね
はくあれはうはるはうあるはなるはあや
しきとハいてあり
秘
あやまりあるはのくはあるはあるあ
るあり　以下事ト日
事
非文非法はおのれにて
はくてしはるの非事なるく

りあるまじきこと
うおりとあり 秘月
私屋の和とハ和れ一なりとも
いよやり代ハ
弥うりあうひとわうこと
左右ハ伊勢賀茂を云ふ九月ハ
神文代れくらふ 九代ふるし
いまハ又神院のれ事にもりて
弥をとこら行ふ事と

れ毛のくらうこと
如此ふむ一
ふりあうおりあれハ
秘 是より草子地
六条れ貴ハれ神院なとも云ふて
あるらよおやさハあるゆうさう
にハあるめ代さハ云ふて又ゆ
におすふ代許一てゆ
ハ原ハふりあさ事にれ代ふ海く

とてみそうり
あやーされんなりや
ゆ出是を第子地に
流りく　弄　祇流の処
流ハ祇流のもの事なり流とくは
めつーさ事へ
すーあいうさ事なりー
桜　ちて第子地とつれなくおくー
なーさ海さうのはをまれあるは

あやーさて評するあり
同出第子地
私云桜の公ハちりあうあそれを
ゆりあいうさ事なりうと
ゆまてくりて第子地とみるを
又同出ニハ流とくとゆより祇
流のちて海とみくすーあれ
さとありうとゆ式さり
第子の地とみなりゆれて

もおかしき事也經九禪抄作下同
よまねてしりて弟子地にし
此説を用へし
六十巻とは常に
天台六十巻　本書卅巻　文句十巻　玄義十巻　止観十巻
天台大師作
疏記十巻　末書卅巻　釋籤十巻
弘決十巻　妙楽大師作
是号三大部

中右記云近日主上学六十巻給
一条院令学此六十巻給例也
いみしき事をこなひけり
源のあそむしけりける紙人これ
よ綾こふなり
おもしろかりしと
ふかうに紙十帖給てはかり給
まむも掲らしき事なれと世
のほまれなりしとなりて仏よ

くさぐさのうの行ふあり
人ひとりれいしと
秘 紫上と 幸 同六月
みずぐるま
法華経と
山ろ法てはふびび
ち中れかの民間て施を行せう
ゑなり
ものしれも

以面彼面なり夕ゆふ巻こり
ちくさのうの人も
ちくさのうい人とあり
秘 たくいやしき人より
幸 紫なりいやしき人なりとゝ
敷古人も 同六月
紫振人本れくるとれあるもい
中さきろのあく本れくのちり
くりうれちくふきろうり

一説艾古人年老て手くらりとる人を
阿佛坊説相詩の西ハやしさ哉
所之老人とハみさうれ
仙源抄云敷海説老人く艾ありてある
き人を仙云紫振人を日本記抄校業人
もおわうらへハやしにたるのおるとハ
にし紫のうらぬ麻の袖ふてらする
うらへ見業あおうらふ袖ふてら
ゆうそもも紫もらありく紫
ゆうひんをいうあるこて定本ハ
志ふうひもあり
已上仙源抄
紫明云紫とハ艾草ゆもぎ本草
にうれうきのあきのあや
云し 或云艾古人ハ老人ハ
タル老人ヲ云
くるまきゆうれうれうあく
服者の車を 板車なるいあ

西文物云童服云々 紫黒遊車
今案諒闇中といひながら法皇の
ハ又は門のゆるすに手輿に乗る事日
服者なれば
たゝみ給ねと
服者のいてらかれハ 衣裳し
あきやうれうれハ ねと云れ法さへあて
なくはつるなり
女者ハ

紫上ハ
ねびはさりおつるはしらして
車村濃 りうの給時は車に
同出日時の給ふねびはされるやう
におもうなり
世中いとあんと
紫の心
南代よりて世ようびあつ
なる代ようびあり

あいなさ仏れさしくみちくなり
秘
源氏れさくく月入給ふ寺日
私云世間いさくら仏はくく　秘事の義
叶ひすと　おかゆ　あいなさ仏れみち
とハ後つかのつれ　なくおそちく　ぬみ
くて　給て　源の　仏ゆ　世を　あちさ
なくそひさや　さかまし　とおか
すは仏れなと　世おれ　おとそたみ
くちりさやりれ　さくく　栄れ

みさり給てくやうに世中いくあんと
あやりくひひさるまり給つるにや百れ
ぬさかなるくくる後ちる源をさと
給ひくとおをハ　ものハ　てりかくひひと
ひ給といふ一　されも栄れ仏ハ
さやりにハ　おかさ　ひくす只世ちれ
給れくりくくる　ぬ年　成一
源ハ世仏れくちふ　さ海　おすすす
あれハくり仏ちり　根　ちて　てさり

やとおもひ侍りけるに
又私あいなきさまのきゝくみちとハ
ちつかぬ勝なるものとうるへしさ
やうれ好ものゝとゝ成みちりてやり
ゝみるふれあるふやとらゝく
おもすゝもやや
又うゝゝと
秘 紫れ色かに又うゝゝあきちう家の
ゝおりし中やや

山けゝとゝゝゝ世ゝうゝ
万集 日本紀 土産 暴 万
河にハ山里れつゝあり
秘 家つゝゝあり中ゝ
あゝのふゝうゝしてゝゝれハ
秘 二条流のれまゝなり
山林のお業
ゆすれゝ
おかつゝかさゝ

後おのふハ必深

秘 [illegible]
[illegible]
[illegible]に[illegible]せ
弁 [illegible]つかの中宮へ 秘日
[illegible]ては中宮へ[illegible]
[illegible]やうにて[illegible]せ給て
[illegible]婦[illegible]へ[illegible]ふ[illegible]を
[illegible]
[illegible]せ給ふ

秘 [illegible]より文の頭中宮の[illegible]へ[illegible]
[illegible]せ給ふ 弁日
[illegible]出[illegible]宮へ[illegible]つかの[illegible]給ひ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]せ給ふ[illegible]ては中
[illegible]宮へ[illegible]せ給ひ一津
[illegible]
[illegible]
[illegible]

は行事より行りて中文東文共乃
共事母とあるさとと
或物語ハ東宮共はうしろにて海
しゆせハは行のをとりとり事行
ゆうり宮のうとハ長宮共中宮も
あるをきとあるかり中宮共長宮に
おくしゆすゆふなれハきの義
きうをきて
日うす共ふあるすやとて

秘 ふさておこなすいしゆ行日数を
やうくいてんいうなうあるを
うり行り 孝

みさうう
みるをんてなくてうりあるおく共
お葉ハうりのあしさなあうり
秘 ちの稱共ふしり引宮円 孝円

よの帰ハいろ〻物ゝ心ゑ
帰らんとこゝさなをゝ面白し
富貴不帰故郷如夜錦
夜行史記

秘
物りよくて
秘
此機嫌よ行くゝみを重てよい
ゆゝこゝ面白ゝなり
此めこゝ面白に
教つかのゝ乃りみちを奥し御

説ゝゝなり
わいのいさゝゝ
秘
源氏文なり
花
ゝみちの枝よりいさ紀文紙ゝ
ゝゝゝしわゝしわゝし
此ゝかのいゝゝゝゝて
赤面ゝゝ面ゝ面なゝて
或掛出説
おもしゝゝゝ文
なれいゝの為ゝ

又若文法みそゆい事和歌ハ
ハしあり
あさこそりやうりうの法人
ハゆうりなう
尋
源氏ハ紫ハかりやゆうりうい
有意なりこそハいやりとなれなり
ゆうりうとハ
あふさこそ事
和歌ハ事也

文ハ
文ハ
文ハ

にはの花ども御覧じてこく
ぢらく源のるてい殿
なほ色うるはしうみさとえなる殿
ふれい
秘
いはさるよそにみんとみとめ
ここそと殿いり給
中宮殿ぜんの御ぢらくはなれ
らの命婦源典侍
命婦殿ぜんの御ぢらくはなれ
給へる

殿へ給へる日
中宮殿ぜんの御ぢらくの日源氏
殿いり給
秘
殿ぜんの御ぢらくはなれ給
たり命婦いり給
まち門殿へ給
秘
御門前今朱雀の門へ御
命婦なり
ぢらく院にいとそまり

秘 朱雀院の孔雀明王みてに仰ぎ
て御つりをさし
なりやふそ
仍 あくふなりやふしてさしたる
君ことはいふえさしを
又乗ものし右の大臣やかたに
やうに移るもの
ことみはあくれて

秘 源氏院に仰せよりて朱雀しはすか
すしたいはあくれと左院の御
ことにいて給へ
元氏君の事を
秘 仍門の仰せ
勝月夜氏源と密通のことを
人間とたくめりありしを
なれとなりなりの
みてものかやるるの仰をを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

門の門詞書園中ゆれて沙掘
なとわるくうつくしうを
中文代ゆしい海そ
源の刑し中文代東文ゆわ退出
わるくうつくしうをうりやう
にゆうさうれい月光門掘ゆしうを
さようをゆりもいくさをいくさをいくい海う
月出をくうゆくゆ先庭命式ゆ
とゆうなるゆ弄月

松文代ゆいい掘しわるくしとみてを
月亭園中し月ゆ代掘なしい
わ面光ゆくし
院のくゆ光ゆくゆ
源よ東文代ゆうをうを桐
みをの門遠文わりしを
いをおうう四ゆくらゆく
中文ゆみ海いい月上言趣を巻
月わゆりり

東宮殿はいまだみたまして

秘

四門の作り業者院のほかに冷

泉殿はまづ御遊動あり

て

秘

公卿殿上人のこれもなれ

らしなり

私東宮殿御ゆわいとおこなはれ

たまはなれさ御公卿殿上人

門し四公中を殿上人ばかりに

行ず殿のつなてこと

そとと白とこうそとこうそとこ泉殿

わ四陪膳しなけまいことわう

しくみかたをつかまつりて

四月日にうの四公さしみえ

たりはかりなわ

うれ殿わい

秘

東宮と殿英三殿上勅定し

世をなしつかさとりこう
わさとはことさらこうなるのを
なり
ものをとゝのゆる面をはれふまたしし
ちゝくしくしわ
秘 此方はおそおこうなるこをも
はるゝをはわさは
秘 源の初
ゆゝいをゝなりふ

ものゝをわるをゝ
ゆをそ給ふ
源は東国ゆゝ行時
大文は此ゆゝこの為に納このるは
四年
秘 大文は弘徽殿
再 弘徽殿は兄弟
四年は弘徽殿の場

・二条太政大臣　朱雀の御母

友大納言　朱雀の女御　弘徽殿大后

以弁　白虹日を貫らぬること　滴せり人

藤原氏敦女御

朱雀院の御母の女御　てにはにはいりこの御はい　京殿と敬ひたてまつり

いとうこのはいいとい　秘　南代の女御し

大納言はさらなり　源の巡査の御のこと　秘　三条の太政大臣

秘　以弁　代々の御こと　南方

系図は注を

白虹貫日

秘 史記并 漢書 鄒陽傳上書の題

文選にしのせあり

いまなりそ

行とわさむ

へ 昭公わかこ

も 日貫ぬきわ

白虹貫ぬきわ

貫ぬきそ

へさこ貫おそれるこいま源氏

を荊軻にたとへそ又冷泉院

東宮をおんしてお

にしてソ

并 ちりそりハおそ

河 漢書 田荊軻 慕燕丹ゝ義欲刺

秦王精誠上感於天白虹貫日

太子畏ゝ

注曰後漢書詳節曰 賈逵屬也

虹蜺主内嬪聡明蔽塞改在后下
婚戚干朝君不見怪虹蜺貫日慈
乃太子丹ノ姫宮ニ入給ふしかるに
といま源氏よりたまはるこ證拠云
日小津ノ[illegible]
仙源抄云漢書の文こ史記にあり
太子こ源氏よりたまはるこ紫明
云虹蜺ハ内嬪よりたまはるとそ
愚案ずるにこの文い慈太子丹

荊軻をそそのかしいく秦始皇ニ
さんとしるその夢天よりあらし
ばそうれたるくあり名れい事れ
なるもそこ宮にあるしこれお
りそるなり史記よい白虹貫日
不と内り太子こ源氏さかくいく
ていなれしとこ云文にたゝ侍らせて
みるのあるかゝるこ事あり
ぬるこ人をおりい毒以百ノ又

内侍代義しるあるべしや虹紙
嬉乱よなくそなる事を侍りを
みえそうし代義なるい源氏内侍
つそにかうるるしやうくさう
そなるやうにあるを又はく代詞
にし以外代をはるこそおりよ
にるるるしくてんまん君ふし
ふしくきをを行えをとわり
これしをなるあ事まん世にはさ

ちえんをくをを又くををちよ
かさををををを更よををよ
ーさなり
或抄に説よえこうり紙はらあん
里をよりをはりをわそをををる
こうといあそえんをを出をえんは
又白虹い前斬の服ひらりし代
をちありををもわそをす
をををひらりをきい

弘き後代源氏あり
うちたてさんとし
秘 武弁なるものまし
ときそちいつかの事
源氏ばかりをよそりの沙汰を
面もなき人へ又勝ちの事を
ところ
つれなうかと
源氏ちかをの沙汰
おまへよりうけて
中宮へ源の事りの申ばかり
のかよりはの沙汰ばかり
いかなる事ぞ中宮と内
しまかり
遠条殿をいりの沙汰
月のかやうの
秘 上の月しかりの月やうの事
東のかりの乱なる人

はるばるせんぞ様迄
相州門の山より長谷ちかぢかの所
いて給ふ御りやうの威しりまかれ
高麗氏し源へ入つ家たち
ふり
新しみ紀内方
山恒代内い内裏し内裏ハ内し
事なるゝ中文代山功にいるゝ
事なりゝ東文代おと

します所し内代ゝ内代ゝ

九重
九重より高やかなる雲代上の
月代なるゝにおりいやなる
秘
おまへよさみていてゝあふ源の河
をうけくいまはゝとのむうす
角ゝて世紀ゝ
守公公いわゝハ
或掛九重にゝ

くらゐにのぼりたまひしをしたてまつり
ひ玉ふ人々の初しは皆々玄玄
源氏なりしかわ〳〵こゝろ人まゝなる
たゝ人にてわたらせ給ふに源の
殿上人にもあらぬをしたしき者とし人
々の心ばへにしたがひて世の人
ていとそ給へり月日流れ給ふと
ふ事はみなれまゝにうれしう
かゝるわかゝるありしとも

ありしかとも
いとおもひたる
なりしかとおもひやらはしり
やつてゝんとなり
かゝるかれはりもひも
なつかのはしとゝ命婦ていはう
ゝつかれはりひもかけさせて
ゝうたはせ給ふ
源氏おもふ

左原

月ゆハハみて世の秋ふるゝ哉

秋

うへハ海への方哉うけて下ハ原

の方哉のくらなり

并

ゆ方の面ハ中文れ方哉うけて

月のすゝみ給ふ下ハ海哉

おもい哉ふるあわ中宮哉てて

てをすゝとふるあり

私云ゆ方おもてハ月のすゝ又業在

哉ハ方ふるとハなれもおの

ふる方なたなる哉ふるふ

いるふるさて下ハ方のすゝ

ゆ面ハくゝて下ハふるつのすゝ

ふるあり

霞も人哉ふる

山さてすゝふ

霞も人哉ふる哉てて花

并 秋ホ引方月

霞ふるあわふり

私語し人はなかりしかと
ふくに書もてつる事八人のなれ
ふくなりしかいふうり
言ハ主言と
秘 文ハ中文
あつれしに
なりしひとへ
あるしもあり いまうの式
秘 いまくいたりあさ由へ

いたくうあるく
花つかのはなの
れいいいくあるものうの式
東文れつねハうやく 清 麻なり
なり
いて活用ハ
秘 中文れはなあるもてあさ活用
今中文ハ毎式久活用へきもお
なりあ一ものあれあるさ由な

はしらせへて
うめりたる
花つかのうち
すゝめ
あくれたるまてまつり
花はなのはれ
大わらわ
源のゆうり
としひろ

人の君にも
抄
ゆかしくて
書

ゆうまくれ
ゆうまくれ
ゆうまくれ
代々
ゆうまくれ
世事
勝月記
本
月つかさ

東宮
白地日
ぬ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ

秘原の氏長者本拓ふせうり
久しくよれをとりあつてもの
ものれうに本拓はなくといふみ
ばつるくトの源氏の氏長者に成
させてしひあさうものなは
これ物りにれとあるハ源氏
れうくらりく久しくとてれなう
をいつり
私云此義の者いくとあゆえ

源氏をうけ初としての氏長者
南流のなりにハなれ初くの者とて
是氏滅すうものあり南流の源
れを平の間にハなしさせてもひ
なれおうりにてむりにうれな
れ月れ物りれなとみあり
此方れ義もうきれりうさ
うう本拓なれなものあくれなう
時ふをはさりもありきり

てもひ給ふ人すくなく侍せば
なげかしとてれうて後のわれは
我ハけけれの感ようかれ
てしまおもうしてもや勝
月東ハ今はなとみれうは成
はなてみるしまハ勝と侍と
はれ蜜通のるすハはんなと之ろ
しかりくれハ人はなりとと
いとあるようあるへしくれを未
拙ふたりへうらいやうありはしとよ
はなはれてなにおもつるかて
行のつあるとやはあ美侍りの
て今業の鱗玩く後賢ふれと
定山一
あるしあるれふあるふるのひ
秘侍はおりひやりはなり
時ふれの京乳又ふのひうさ侍へん
と遠切はは侍とはのおり

きるなり
うれみても
反紙に
筆なるも心にに
勝月東子紅葉れう人うれと
なるべし 年日
ふしうなんと
いてうもうもあいひあうより
川ひうひ紅葉うあうと人うう

しとそ
きこしめせてもうひうれ
原の文は紅に
知らうにて
竹の出勝月東よりうれ有よてみあ
ひ紅葉ものの井戸れ都に竹
をひ紅ひ中ものや又竹
東鶴見の竹花井わのうて三と
ふしうふてはつりし

年内

月のこゝろをかゝふ

数ならぬ身のこゝろをくるしくおもひて

ゆくゝゝ海にたゝふらんか

海ならぬ海にたゝふなるいとゞ是も

四方にたゝふこの方ゝ

ゝゝ川方

関山勝れ方ゝ海

あれハ海ゝゝ海にのゝ絶ひ

仏

年秘川方四一秘ゝゝ

ゝゝ海ゝ海ゝ海ゝ

ゝゝゝゝ

長原

あひみて方ゝ

なゝてれ秋の方ゝ

秘

世ハの方ゝれ

れなみも方ゝ

おゝゝれ秋の方ゝ

ゆうしんすうすもと

或物語に

私云あひみてのちは世にた

ぐふりてあひみてまゝにうく

きものなりきはものを

さゝゆる堪忍の心なれば今は

あはなみさなりぬれば時節侍

なれはおのうきはひの志れ

ゆうしんせんとすみうなれば

堪忍をしてこそ

此かなるなりはいるなるあれ方を

拙き

私

我心はつねよりかうをの性を

かるふうはれくすきて物の

となりもの拙おひもそれの

ゆうやみうせくれくもう

はわれされおあるとうの

ゆうさなりそれは仏ようね

也なりけりとおもふ心ばせ
にはあらずなりあもはおもひ
はなれんとこころゝゝ
たゝえられ彩と芸合
人ゝのたゝはそしかるべくゝや
あるも海をもそうよさゝゝ
君おもむしたれ所にかよへゝや
はゝゝあるべきあるのあるん
今宴なるあはそれふゝゝ
なれかゝるはあるもさゝゝ

秘
ゝさゝゝあり
秘
花月の引歌あり仮は引歌
にそよはゝゝ
寄
人ゝのたゝは所に——たゝ
元
但不及引歌 第五日
いふなるあれ所よ
秘
引歌あるゝさゝ未都れゝすれか
くはいふゝなり
ゝの元れゝ

秘 えしまて文殊師
高野にたりふ仏
秘 えしてとそ
めなり
あらいおそ海
秘 げんの者ハ分もそくこと
おそくしりあるよ人者
へーされもらすて法
ゆうへーー

原のはしめ紫ふれおくもちあ
国玄奘子地
院のゆくて
秘 桐みもの法一国忌
はくそこ海いれ
幸 中ちれ紙くそ
さなり
是ハ本院のはれ仏にハあるとあ
中ちれおこ法ハつあてよれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘

なまてなるもうれも
なるへてこれハその世ふあるなら
もなるハしゆれとなり 歌向
おるしろ
けふそふ弟氏くしてみ
はつめ
まちうはめうハ
夜ふのふれ申
秘
ゆめうさハ一ちあるゆ
なり常のおなるう何も上ふ形
なりれ見われふ紅ハ一ちあるや
うるゆるちふのれふ紅ハ拾
ちみうう
弁
かめうう親ふちつれるつねれ
やりにてうれ待きれなす
ふふハうに
人りハ別なるあり
ふハうのゆるも

松

多ハ後つかの御ふと紙も添れ四巻
ゆらて左流とゝ[illegible]ひ給
雪代きくにぬれしく おこゝひ行
御のはこ[illegible]あくれなり
十二月十よ日 りり中宮れたゝ
寄
同云中宮の御八藤ハ毎年定う
年ゝ一部不定年せ 定う法
年ゝと見侍ら 元亨年
図書中文代御八藤ハ例の事し

玉代らく屏の つ[illegible]しらものゝ
玉軸 羅表紙 快算ノカザリし
御
玉のらく つ[illegible]ひもらものゝ
こあり
快算 文巻し 快算とハ巻物代
しけゝらすの面に沸をして
つり代さして くみ代緒をつけさ
ゝらり
紙にゝさす書籍ゝを納ら

秘 ものなり
行を貴にあみたの本願の經
をつむものなり 年日
佛のはなり
佛は莊嚴心
なるがゆへに
机の脚にもるるなる紙うの物
三〻〻〻〻〻經や佛具なとすべり
机なりおひしたはうへよりは数

あるへし
秘 あの日は先帝はれはう
後中宮は又みたりあり
つきの日はなりこさきは
これ又後中宮は母后心八月
第二日なり
又の日は院のはうゴ巻の日なれは
第三日心は日紙相垂はみたの出て
ろうにしは心世日中日まで巻

はなして提婆品に成道する
事
大くんの日もとゝ心〳〵一動
秘
第三日之薪の行道あるゝ
世の作法海一さに成えるもとゝ
行ゝて
秘
弘徽殿わたりに成
ますれて海とゝ
私
巻の日之ゝと春流の如ゝ
なれい世に成悼らすゝ殿上人

皆ゝ
たゝゝゝゝかゝゝ
は
大巻日や　採薪及菓蔬随時恭
敬與　法華経大巻提婆品
於
法華経成ゝ我ゝゝゝ薪ゝ
行基年
菓つみゝみつゝてゝゝ
私に成伽藍りゝて行ゝお
ゝゝゝ

さぬくれかりうちさけて

捧物

伊勢物語云田舞みとみ

おくり物のときの時は女はらう

さことりみとりうちはらう

せをして安濃寺まてはまり

ありて海のうちあつまりの

よさけうちありきこくれ

さけうの代本は枝よはりて

堂はおよたてれい山もうに

堂の海のりうれいてうや

うしなんみくう

或物語云枝とをて食

りてうち稚はれ物はなら

なりこと

私云八講の時諸の物和歌み

はうとうちうてはりはすうりれ

八講は仏法くくしくはく

[illegible]

秘第子地なり　八濤寺西文

同出源氏あまり知むる也

り筆者のくはなりみるこ

りめつくれはこと紙は

ふうり

そそ此日はわるはる

第四日なるべし

秘

故臺坐家の事

みこはなるべの知たらて

秘

中宮は新撰より抜て立給べ事

仏つくり事

秘

無子御文さたに机をる

四五日給りとの給り

いとしとけ給へ此給す

仏受戒事

の給そはいかに山廣也

受戒行のさまゝ伝授はなの
仰せなり
秘 はるばるよりの
中宮はるばる 井田田とぐなり
みこもいとうなれ行
はるの哥卿家の
あ院はみこもハ
相伝門のはなまこ
秘 中宮はるばる板よあ さうみこもこ

秘 むもれはあるさま
あ院の中宮を大切にあるめ
さうし法あるや
たゆハこもはゆり絶て
源ハあもりかいをて いまゝ西
きゝぬくなり
なるさうしと
人よまれてなけさ行くんも
人はとうゝへきとあれこ

みこのいてはなるる
関白左大臣殿みこらせたまひ
なひなりいてはなるるを
中宮内侍殿参りたまへ
私殿の参りたまいまさせおはし
源氏の君まいりたまへ
まうれは参りたまはるなり
やうく人まうりて

うれありまうこひやりてみるに
私云 ありに源氏とずく物うも
如此まうりはなるるに
いありにおりまうせ
秘 ちかの頭
いまうしめてこひなるに
秘 前中宮の内侍
私源のうう儀ふたりて
ねてうれ公まうけの行

拙さりしさまなりてれハ
秘 人くに拙さりしせ程ふるり
てしこうれぬ
辛しみれぬくし氏綱を頼信こ
きりかをてあれなりく
私は生家のすハとくめうはん
さにもあす相は門の崩れの時
りれるくされもそのさハり薩
師なりしおもりあさり

くてはしみれぬてりし程よ
ゆてそかりうもいこ
ちいひのうこうこもや
しあはゆいく
さくりにいとゆ程
人くれ薩中にるむもも氏
あくれよ源のこく紙ふり
みとのくれ自ひいとものさ
秘 薩中のそくうれく

[illegible]
くゆかりよ
黒方に
[illegible]
秘 [illegible]
りハあすはるゝ[illegible]あり[illegible]方みと
[illegible]なり 年月
[illegible]
[illegible]
名香ハ仏ふてまつる香 種し
の香と名香にハ[illegible]入さる[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
はんつよさも[illegible]
中宮のはかく[illegible]
私中宮は嚴飾の時ハはたらはよ
りしも此東宮のは使りハ之
[illegible]
大ねりとく[illegible]
東宮は使にも使はるゝ様ハ
させ給ふるもあり

秘
大ねのもとりてゆるさる給
ふ。代宮より此ものを
とくく使の給ふ　今此集三人

私[illegible]
[illegible]
使はは中にてのあくれをのゝ
ひこれるもあくれと人くれ
[illegible]
くいひ[illegible]

月のすむを井戸にまてきよとも
はせはやみよなる後やはよくん
中宮のはは井とをうりてよ
みはつうなりうの世はやみハ生家
のはるを
を井とうけてしハ禁中はまりハ
あるを中宮はは生家一族て切利
天上なるの自はくすも天上り
てしまはは仏のやしハくれ

ちうとしとは年日
こはるたまつるをしそひはく
おりうをせ
くれくれ白はりて四月一
或抄はりはつてをくそひるく
し後つりのはるはいはくや
月のすむ迷ハ法のはるはれはは
あそくすはやら
私は義について業すはは月のすむや

井とハ只今中宮の御家の事也
なれてこそふるもとハ酒ぬる宮の君
と云ひてみ物語すらも御妄想
ハくれなくうゑ人ハ御頁園や
内よりんと思ひそひ給ふ
と須臾作給ふ
今世ハやはとハ東宮ハ内ゆりこ
りうゑ〳〵は義如何
おりゝこそ世ハ
中宮の御家のゆゝしさハ
こゝろゆゝしきもおの方ハ
こゝ酒ぬ思ひそひ給ふ
やと思ひ給ふ
しこそ物語に注せ
の方ハ義ハ
御家ありて
ゝれ行ま
内ひ給ふ

[illegible]ていはりにきて
[illegible]ひとの出家れ人に対して
やうにいひ[illegible]れしあり如何
[illegible]れ[illegible]にえさせて
[illegible]ありす

源の仲[illegible]

[illegible]
おそ[illegible]れ[illegible]ふつけていはしも
[illegible]この世[illegible]
[illegible]
[illegible]

れるり高光ものぞく河山ハす
みなしなりよりてはじめ
私高光出家して横川に住に
天暦れみなしりけるとれり方
都より西れハ京にあり山れ
横川の水ハすみうるん
此れ製れをかにこのれるり乃
ふるひより流せるり
私さるの流れ方ハ流すりと案れ
義れるるハ此世をのも山るる
一一源のるるハれ流れるひ
て年家るるるれ此世のやに
源りよりつるるれるりしおりこれ我ハ
ひるるれ中文れいるるる
身のりるるハ世るるや
源るれるりなれるの義なり
れハ世なもせれるれいるる
るるれもるれ源の

の[illegible]この世[illegible]
[illegible]
[illegible]

今案ずるに
院の御所
院の退出
ものゝそもゝ
秘 二条院御所
世中いとうらめ
院も出家もあり
母宮様御所
御さてし

秘 有院も出家しそれらうらめ
と仰あるもの様と思召やら
なるハ中宮にてあり世ハ去文
のはたらきに
しと有院の御所と云
ものはくゝ并
秘 中宮御所
れさみそさうけてし
院の出家
て去る様みとて

秘 有院も出家しそれらうらめ
と仰あるもの様と思召やら
なるハ中宮にてあり世ハ去文
のはたらきに
しと有院の御所と云
ものはくゝ并
秘 中宮御所
れさみそさうけてし
院の出家
て去る様みとて

ハいろあんとあり
ほとハうるざ毎れ
秘 石の石具なしとまてあて海のさ
いと世行と
れるとなりふりれハ
命婦も中宮とおるく石に
なりうなりり
くりりひてんにとくしさ
秘 さうくしやといまて苔み他

なり
命のおよおりうさうなるの
なれをうのうすなりとと
うりてもりうとうくささ
とは中文命婦うりとよと
らひ行ふるおり
ぬいりさ海ものハ作海さ
うまれ
秘 海のうなけ行るもいとハあ

[illegible]

花つゝの源氏うみをしれ

[illegible]いはの行ゝもあるあり

[illegible]ゝ[illegible]てし中ハ

秘源の内

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ぬれハ

秘源廿四歳よりなり給ふ事

七諸国[illegible]ゝ[illegible]て事あゝ[illegible]ゝ[illegible]

此始ゝ

円わゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

円宴者唐太宗之舊風也遷滅天

皇弘仁三年幸神泉苑覧花

樹令文人賦是始ゝ

延喜二年正月廿日御記云左大臣

令菅根朝臣奏先朝雖御僊

宴至有円宴多用仁寿殿此度

円宴可仁寿殿[illegible]ゝし花人求詩

涼殿記六月廿日注曰廿二三日之百箇
有子日便用之廿二日義人及所
司裝束仁寿殿新殿弐之百月廿日
内宴事前一日義人所雑色以下
并所司裝束仁寿殿東工廂立
舞臺東庭遣使義人於於親
王方弁卿内日可条之状人義人
以事作令廻作可来文人六南日
御仁寿殿立御書巻

はれおこうひきあやうしに
前中宮
もろうしうしき事
秘
源のくらもちの公の事
はねはれはねんすぐうし
指御書巻
なりこ
是ハおもりあり
こたてれうみぐう
是は尼りなりなりてのちまて

[illegible]
[illegible]
[illegible]
なるべし
大納言殿[illegible]
[illegible]の後[illegible]三条宮
[illegible]
[illegible]
[illegible]

白馬ノ行ハ七ヶ中ニ為ル
十節録云正月七日有白馬ヲ性
以白為本天有白龍地有白馬
是日見白馬即除中邪氣遠去
不来ル
皇世記云高辛氏之八正月七日恒
登東崗令青衣人令引青馬七
足調青陽之氣馬者主陽青者主
春崗者萬物之始人主之居七
者七曜之精微陽氣之溫媚也
宝亀六年正月七日天皇出楊梅
院安殿設宴於五位已上流而内
厩宴進青御馬兵部省進五位
已上裝馬使中納言石上朝臣進
就版位宣令其詞曰令詔之今
日正月七日豊明聞食日尓右
是尓以是尓登殿上ニシテ青馬見儀
跡退止シ

[illegible]和元年正月七日天皇[illegible]
殿覧青馬助陽氣
心袁中覧白馬変
貞觀十四年正月七日左節会
九月太后崩心袁中之后右
馬寮御馬於内殿前覧勝人
不裏束
白馬袁中宮事
權記云白馬同袁中宮竹鉾[illegible]

寮官
[illegible]
三条[illegible]
[illegible]
[illegible]
秘 二条[illegible]
[illegible]
并 大[illegible]ハ二条[illegible]
[illegible]

一注　大殿もありてあれ

千人（ニト）をもうけつへき

秘　海のとさまりは海ふかしに一人

あまの千もいひつけをき

あいなく海くの海の

感　ーーーうら海をうへー

海ーーもいとものあれなる

海のあまなり

みものくれ本下れ

元　白文の山は此はたをもとをうけ海

の幸をみそひ出てうつる

秘　海の入水し水面なるさまを乾る流い

の幾年

人をはなせをうり

業　業ハ文武者のおもうへをはれよろん

なせをうへ

此流みたりはれとハ門りをひてお

ーろ

秘

六条院と中宮女一宮をもてきこえさせ給ふ
時の事といとりて
中宮女一宮をもてきこえさせ給ふ事
源氏の院後六条院にて住給ふ事
おなじ事をふるまひ
中宮は紅梅のおもてはなれおはしまし
四裏にて中宮女一宮おはします侍後六条院
もてはなれきこえ給
住給ふ人々
時々出入給ふ事
なりなり
左大臣殿昔の御きさきひめをもとして
夕霧の大将を輝きをいとり
夕霧は御子のなり源氏は侍時をも
うつしきこえ
私をとりそへ人々は源氏の御時の御
くらいのことを
いとめでたく成給ふ事ハ

源氏の一族はそこなれハ
さのみうらまいの浦なるハ
白文のはるゝ　秘　幸　美
私はまゝおそひみ例なるめ多わ
ひかりはなれ
浮舟はそのあの事をきゝて
宮のまゝ上にのゝしれたる
白文のかはぬ色ありなる
さゝゝゝなめなて文関はまりはなれ

秘　明石中宮は物服るこて関はまはなを
幸　明石中文のる
美　円裏（還）浦
さのあるうるるるちハ
秘　白ゝ　美　幸　はなれる
多ゝそかれでも
秘　白のはさ海
海ゝゝうるれさ海
美　川ゝみのゝ白はさ海

いとけなくも入給ふ法師あり
葉ハ白ノ中ニ赤キ花ハ入給ふ人生ぬを
心ゝをきをうく人ときこゆ
きいのかとこゝろまとりをく
白菊葉
かの伯耆ハ知ぬ人をきてまつ手
花伯耆ちゐこ市ちとをうとそ
ちうの法ちをちれちとそ白ちうう
法ちにはう色しの伯耆
いけうしたもしくしうりて

白ちりうとと葉ハ（ゆゝしき法ちにはなうく
おうせはかて（うれ主ちうり伯耆う
なりを
かれもうちの事
法ちにうけれうけて主ちあうと白ちうう
心ちりうふかうをぬれいく
法ちの伯耆ひうり
宮はうちの伯耆ちあうと主ちにうき
ちうう

秒 宇治の御はしかりそめ
義 白文字法華経の第一
巻八巻之
私詩物語の中に白氏文集
はしかりそめ胡蝶の書
何の白巻八巻中文殊巻
ひらくとうまとくるに仏法八万
きこゆるかうちの巻八四巻
意味すと中文のとく京花の
白氏文集八巻
ちなてとく仏法の中にて女房
なく物語の巻八仏法八巻
つくりけるとうまとくるに白文の中文
乃は前のいまとうまとくるに
さくる
尺牘
仏法之巻八巻
侍りてをもくさて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物はかなしと思ひ中くらされ

世をわれ身はいかなるかくらとも

たゝさらぬあるものを世ハ無常とて

くふてしらるとも会う道

しる人もなきハ中くらるゝ

なさき事や

私ハ世ハいかなるとも

世をいと

うらぬるものゆくらけ世人ハ

所をくみしもなるとと

只今年ハいかとうるとそのゆ

てうらもまてハかれとも

私さやうみらとを

つくやうにさうしこうるとも

かくりはてりをあけりみをハすんとかくらう

いくくて

英ムしはてりを見てけりみのうをはみをはよりぬ

おひさうをひをうるみれこ世ハ世ハみを面のさ

とはてりのをさをおこいみたるしをみや

物はかなしと思ひ中くらされ
世をわれ身はいかにかくなるとも
たちさらぬあるものをハ世界とて
うくふてしうらとれ会う道
しる人もなきハ中くうらくも
なつき事や
私はれ思ハるるとうくあるとくまゐ
はをいと
うらはるものゆくうらはこゆ
所うくみしもわるとと
只今年ハいくとうるとあり
てうちもまてはとりめてハかれとと
私やりみうちをとくさ事とうち
こうやうこさるもとうもとうるとと云年過
かくりおとなくはとりそうてひうるとと
つさらむしかくいくとくとと
おとうくあつまるさはくうるとうるとち

かくやんハゆくゑ分ハなにゝてゆ
秘
そうしくゝをうきてゝをぬまてハおもはれを
くゝやゆゑ人をの分めてなりをゝ
をゝハ分ゝ仏会うゝをきゝ
寿
弁ハをゝゝゝ分ゝあきはをゝを世を
みなゝいゝひをゝてゝをゝ仏弁
分ゝ分をゝぬゝゝ
私ハ一段をゝゝをゝ
ゝくゝひをゝ

をゝ分ゝんゝゝハ弁をゝかゝ
墓ゝ仏ゝゝをゝ
をゝせぬをゝむを物ハゆくをゝ分ゝ
をれハ仏をゝ分ゝのをゝ世
ゝをゝひをゝ
をゝをゝをゝをゝ
ハ打をゝぬハ弁
ゝをゝ
ゝをゝハ
ゝをゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寄

女房ことの葉に

松平伊豆守

ふりしかさ花のまして

燈籠まつりの夜

寄

女房ことの葉をうる秋せ

蓋

をしまつしらぬ野へ

みちしるとこそ

あさかをあるけりや

河

女郎花ありうの花へ

みちしるかハはや

かくあさのかをやうるん

元

女房ことの葉のあつまりあるとこそ

しるみのつゆ

うら実はうるをいあるとこそ

ゆくかをはこそ

てとしまつり

寄

女房多きゆふ

ことの葉ねあか

らあ人ものまいあ

しとこそ

ものやとこはあさそ

弁 [illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

しへ[illegible] 弁

業 [illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

弁 [illegible]

弁 [illegible]

業 [illegible]

[illegible]

[illegible]

弁 [illegible]

[illegible]

いまはうれしきうみちみてさけらまて
（秘）やいんとせ一人の恋みをとてきち
まて花うなるうへ（業）
いとけさ生うあるうせきれとみて作りて
（河）歌言　老人須
（心）うしうれ事うて
きさやたくうをぬをみて
まてしてけのとをもう　私は恋
（秘）花といあはの弁論のうしと
おさけなくうとて早下して歌云
せうるたや
（辛）歌言　花といあはの弁論のうしと
そうて早下して歌云みうとあと
（業）しうの弁　河のまりうをうるとうて
歌云みうてと弁ういひて文弁とある
私は弁うは恋乃方み方共河のうと
弱みうけうやあ実人のうらとはをと
歌云みうてうて弁ちやとと

[illegible]

弁

[illegible]みよをしれ命さきも

[illegible]

山寺　秘寺

善

此寺ハ弁ヶ崎より[illegible]ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]て後ちてハ実ハ初めてしと
色葉
色ちさは一枝ハ新ちむ[illegible]
ぬこと[illegible]
桃
葉の所じ　幸　義[illegible]
業
[illegible]ちさ[illegible]一枝は[illegible]葉
乃色ハ[illegible]実人[illegible]
[illegible]
私[illegible]ふ[illegible]ぬ[illegible]と葉[illegible]
さ[illegible]色ふ[illegible]と[illegible]葉

乃事とさこ[illegible]や[illegible]
おと[illegible]
[illegible]
[illegible]
元
弁乃[illegible]色[illegible]
桃
葉[illegible]事を[illegible]女[illegible]
[illegible]
幸
葉乃所[illegible]
[illegible]

菫 弁をもてしや
大ぬの野のはらをとう
菫 弁のもりさわらはなかふ事ぬはま
しさをもや
松 弁の初ぬ
をりはもや
辛 弁の山初ぬ 同君ぬ事つぬ
さかし理をあ
はらをりまてこと山ぬ花のす

みしてて野のさらしとそう花
菫 ぬ事をこう
菫 ぬ
松 心かしみちのをりをんよ
松 菫ぬ初ぬにみかぬ
ぬてをぬはぬ
松 女房ともぬ花
かはしやとぬ
菫 菫みをつぬ

人乃事也

人の身をもちいたるもとゝいひて
立ちまをかの女をもちれうるんとゝ
なりまをかりしと之ふこと是は男女
なりしたまを葉月なりなるもの
私は義なるの義なり
をもひ人をもちうるんと
舟をいつ角をもうまを如房道はなちる
湖もとうもうの人葉月なるもの

えんうはかりとうまをとうとて
葉月さ角

中ゆ秋いてをもうもうるは秋のう
大庭四時心惣苦
就中腸断是秋天　白楽天
いはも人乃ゆゆ悲ハ秋也
なる角
秋いりはは侍とうる秋なる
物をもうもうるとうもうるとうもうる

あるはたうこうぬりをしたるさ
幸 はちすみ蓋はわいひのうはしへ入れる
業 蓋へ入れたりせしへ
宮はしのゆしたりてあれたりしのあくこは
いとをかしうはあるうと
白えとゆわえのうとをはまへ
かれたるぬの中はえ
元 一ふ文はあるうちし 幸
秘 女一 一ふ 文乃中わえ 業

なをなやしのうとや
幸 白文はひうみやして女房のうとて
ゆうとを蓋ゆうしきれしとうまを
あれみかとうりうあうとうちを入れかれ
ゆうきれくさうあうよ
業 蓋のはゆわを消みうれしゆうしうみ
はみうをかてあうくをひうをうせ
こうあうはれううあうく
秘 白へいうれしれうはけうれうをうと 業

弁
葦の葉を
松の葉しるの白髪みなれそめるを
ながめつゝ
ゆくすゑ
ゆくすゑてのうらゝゆゑ物思
白髪の始めてみ侍れいるをと
ものさとをうらゝ
さもハ絹と一ふの女の侍りし葦のとも
しさをうらゝ
秘
女一ふのうらゝさを海の事せ

弁
ものさとをハ葦の事へ侍ゆゑは女一ふ
方さ海のる
ながくしうくの
しげ
しげ松をうらゝは鳥羽事へ葦の子人を白
みとうる事をそ
きいの公いまてはくさ名人をかゝひう
てうるやひし公
葦の
葦のそひのやうハ一ふ女の侍方みふ
ものうれ人りかゝひつさ

[illegible]てゝ[illegible]
らゝやと思ひうるべく
秘 葉乃浮舟
をしこゝろ[illegible]
[illegible]
秘 [illegible]
[illegible]
元 論語曰 雖千有万 速而才七
秘 人乃[illegible]よハかゝ[illegible]

弄 葉[illegible]よ人[illegible]
[illegible]
元 [illegible]
弄 白[illegible]
[illegible]
[illegible] 白[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

元 いとものあさむつひとは蓬屋もとの宰せ
松蓬とはりけひハ世上をとそうにはるる
らめれりきすみハたりとは中宮
侍事をいやせ 侍さとろひハ安通みとのす
をく学問りのうのめ
松きとふらくれやは大ほうはうれ
あるかく
松 中宮はるはるはひとるれそうさぬはと
のうきにハとうのうるとう
あうなるくせあるんうれやみ

松 一ふ文をくをそうて
松中宮乃ひとせれ侍うるはほ
いうとうこのうねハとぬそう
蓬 蓬屋中宮はひをハうそうそそ
はほうう一ハうくへうねくうぬとく
松きあうちみまくうをとうはをさ
はりうや
蓬乃ひうしぬ色をうくひとなくあ
うやうや

いまさられはさきの
浦舟をまちかねてはるかなる
ふねをあらしとけはやひの時ふれ
流のうへもつきぬ世をいとはしく
中将
きいのくにのうらなる海をはるかなる
女一宮をえうてもまうしけの事
秘
女一宮の御方や
中将
はつかりをゆくさきのうへ
はるかなるあやし
葦の花ちりはてぬ中宮はいかなるひとにか
てはふれてこそ
ひめ宮はいかなるさに
中宮の御方
一品宮東八中宮とひとつおもてなる
ひとけなるふりおとこ
なりあひあはぬ時ふ葦の花おりかへすと
なりてうれしきあはれ

故々得(モテ)盛(まやかんテリ)時々弄(ヨリ)小絃(ツマビキ)

耳聞(ミミニ)猶(ナホ)氣絶眼見(メモトシ)若為情(ヨモシロカラン) 遊仙窟

花

遊仙窟ノ女はひくをきゝていふ

松

人ゝ神ゝ[illegible]

[illegible]服ゝ[illegible]

むの[illegible]

弄

花仙窟の句見可

[illegible]

[illegible]服ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘

また仙窟では、女二人あり、
一人は白玉、女一人は紅
玉、女一人とんちんと云
ふ白玉をしてやる義

幷

遊仙窟に氣調の小姐と
云ふ人あり、白玉は紅
玉、私幷義姉

中略

幷乃至

ふるこうれくくみれをちらすと
客貌似男儲安仁之外甥
氣調如兄崔季珪之小妹

花傳

また遊仙窟に、
わが明る中宮の御事、一昨夜
あれをちらすが如
秘

蓋し同女一人あれをちらす同

さかりを見うり 弁 義

清安代 崔書狂とともに客舟にて金

うり人もと

まいりのあるこゝろ

秘 中宮の清うらにて 弁

義 蓋乃翁と女一宮はいとうとましくなれ

はるゝにしりおはしまして紫

うあるとひそかに紫いろの

いとこまやかなるをうばゝのもてう

秘 人々いかゝ思ひ給へ思ひ給へ

義 ゝろうなりけるこゝろをもてはやし

義 蓋乃翁とそなたは打ちとけて歌ものも

のしてつゝ

ものを人のはやしたてゝ

しに和琴をしらべ

角ものれうかさねゝ

義 ゝ角しなとゝ

ものゝ角はあやしくゆりにあて

呂ハ春律調ハ秋かうひらけ
律ハ秋さ又女みとまこと
又女ハ法律さ
ゆくさ道こう人ハ
物の為にゆくされかうく
ゆく母こうもをとりうくさ人は
女三宮さ　幸義　其氏母宮のうもとそ
こさけいくちとこさ西りりへそこうあ
入名　多は源氏れ氏さ一ふ宮清水

言れ氏こうも
私源氏宮ハ帝乃妹宮乃妹宮乃后は
ふ里氏宮氏ハ源氏の母宮と互
后何ふ里ハかくいり
みもくれ母宮はさつるさ海
女三宮の又みと生産院女一宮はこの
清子宮氏さ
おとくあうさりうをを
ことばあうくこ別こみはあ氏宮

同事なるもとれ女一宮は后にはりてゐ
ものとなり之其の位
あるれ俗はだみるうまるあれ
義 物石中文乃事はいはる事をいり
りるすくせはいと俗をはるう
其乃母文の事より我者をきれた
らるるへて之は俗をいるれ
両てるへてりるすてまるほと
元 女一宮女二文をるへてりるてまるる心

事は何のまるかんと其れるるせ
秘 女一文を女二文みるへてと
宮乃其はまれのるい
并 むるる乃其れ位はるるや
まを又事れへそる
浮母るに之るるへてのるれ
みこ乃せるるせ位
秘 或る文其はみるるるひしわるる元
るるるへおりぬ 義

業
文殊菩薩かたへ菩薩のかたへ
見せ申ていろいろ海ろいろ海
業
菩薩をしつまてそうろうく海
松
人まくらうろ紙
ろれうろ文つ海
業
こ事ハ大ろ文殊人のこ海うとせさろ文殊
文殊無房かたへハやとろよふろうさり
しをほあていろり
人しまねなせれと

松
菩薩訓也
私ろり事ハ人のりろうろんと
菩薩ろうねくしさろ海ろこ事ハ
乃ろうなろほもいろと之ハいろろん
しそひろてハろをとろ分ふと
ろろうろうはいと

みか人さまてさせ
元
成文殊ハ人なしは
文殊ハ人まてとさ

[illegible]
私は後の行
[illegible]
[illegible]
[illegible]
則古今の詞をとりてさまざまに
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女一宮のはうかまてと
うとくしう人はてなりもそ
人はてとそうゑんていまりうとくしう
もうこさ事しかてすませてけるこ
けみしゑはうはてて
松　さてまてやうきそうこ
さうゑめさうゑ人乃こゑみ給ふ
こをひさゆうゑんへうあまハ
光　ゑハ女房のゑみ茂ゑとうをさこえ
みをけふしゑゑはてこえて
しさこえて衣をゑ川うこかあうと
美　文乃ゑを織み川うこうてこえあ
しうの場りせ
松　ゑりしゑりとゑりしゑりあと
河　涙をうこうゑんみをむうゑ松とむ
うゑ友ゑりうゑくに
光　松しゑりとは昔ゑ人をうゑ
松　今はふ人をうゑとかうこえあと

松山殿御命
もしもとなれば
しうして
元
もしもうせ
乃祖
高
松
もしもたれ
筆
おもしもの
ひしみ
人
宮
宮の
松
宮の
しさを
人

かりそめにこそ思ひたちけれ
宰相
宮の方のいらつめ
なりけるかとうたがはる
大ぬし殿人かずにはをうちとけぬこと
なの方にていとはしたなくもあるかな
さりとてしのびやかにぬるもあは
れなりやみや
[illegible]
人人はかずにはおもはぬ
人の事とはいとのやうなるを
しりながらも女房殿にせめられて
をうちとけさせ給ひて人はてかなて
とてかさねたりとうちみうちかみ
みたるもいとをかしう女房殿にひて
色ごとをいとかなしうもあるかな
[illegible]
うちもしこそ
いとのをうちかんうち
いとのをうちよさ海なりん
大乃人うへまいれかれ出みうへさ
花
白女のれ事せ
秘
白女はうすれ公うへうへせ

私は宮ゑ[illegible]
はんらんとせ[illegible]
あまたこれ世せ
松 [illegible]
弁 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
弁 [illegible]
[illegible]
[illegible]
弁 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いたることなり

今案ずるに二の体あり一は陽焰と云

是陽氣升燭の風りみゆるを云うけ

うるなり也是は云はるとなり一は

蜻蛉と云也くるくるいのちうくさ

ぬ之形なるにはうかるとなり

以奇ハいけうとしるべしとてきこ

えぬるさうるなり故に以て指出す

乃ち云うるなるべしや　以上義

河陽焰　涅槃注云受者執時之炎流曰

逝炎輪但有其名而無其實

華嚴注曰辟言如春月時衆生見炎氣

愚者謂為水

又同注に野馬とあり

文月之を陽ゆるとは

水ふるうるなり

[illegible]たるとてもそれよりはうまれあ

ぬるなきうれ世ようるまれ

寂

けうとき所にすまひしられて神のまもりの
後
かたちのあらはれのめさつらはタ書れ雲
をもとめてうゑをもとめてもりまち
寂
をけうとのはやしみやうくとまれ
ちりぬ人のはをつくりまち
淮南子曰水墨白蛇
列子曰蟯螾主杖懐之上因而生鶴湯
而死

ものゝ八詩ゝ文くまいひて一極
を遊絲又野鳥ハいとまれて花
ゝを野鳥ハ麈埃せといひて天地の氣
ゝ物ゝ武ハ湯笑もいまて日
乃光ゝ物ゝ中ゝをいひ武ゝ又
神因所花ゝは光ゝ光ゝ色ゝ
形ゝ人ゝ光ゝ色ゝ
筆
ゝ雲日ゝ湯笑ゝ影ゝ
ゝゝ生ゝ文の花ゝ月乃日

うまれ出ハ水ぬ上ゝ月ぬうけたりて
ちゝとしぬのうへ物をうるとて行
末ぬ白ぬ之川くぬ法氣ゝ生ゝるぬ
ちゝくとゝうぬ時ぬ出ハるくなるぬ
時ぬ引ゝみゝ川ゝ物ぬ生ゝ出ぬ
ぬ出ハゝ